

熊本
山砲兵第三大隊
計理部
籠城
武庫主管

日誌

田原藏

特別

リ5

15709



拜啓益以御清穰奉恐賀候陳本年二月廿二日靖國
 神社ニ於テ例年之通り熊本籠城紀念祭執行次ニ社務所
 ニ於テ會員相集リ如例神酒開キ濁酒粟飯塩鯽等ニ懷
 舊談モ賑々敷有之候此日之會員ハ大迫大将閣下始ノ三十
 餘名ニ有之候實ハ昨年之當日樺山大将閣下之ハ發議
 ニテ本祭典永續方法ヲ講スヘシトシテ話有之爾來我等
 五名鳩首協議別紙趣旨書等相認ノ同日會合ニ閣下
 始ノ諸君ニ御相談致候處孰レモ御同意ヲ得候次第ニ
 御座候御出金額ハ固ヨリ此隨意ニ有之候然ル處同席
 上會合諸君ヨリ各自出金ノ標準可相定旨御話有
 之依テ取調候處會員之現數及ヒ狀況ニ參照考察
 致候場ハ各負之恩給若クハ俸給ニ年收額約百五十
 分一乃至二百分ノ以内御任意御醵出被成下候



得ハ豫期、総額ニ充當可致乎ト存候此段添テ申
 上候何卒御賛成之程希上候敬具
 追テ御送金之儀ハ本年五月末日マテニ東京陸軍
 省官房陸軍一等主計白井民次郎宛御送仕出
 希上候

大正六年三月廿八日

出石 猷彦
 與倉 喜平
 摺澤 静夫
 宇佐川 一正
 山根 式亮

田原鏗一殿

熊本籠城記念祭基金増募要旨

熊本籠城記念祭基金別紙甲号通り重本テ之ヲ述テ要キハ依是明治
 廿五年基金ヲ購出シ七百圓公債ヲ得テ之ヲ東京借付社保管ヲ托シ別紙乙号
 (通)利子ヲ以テ毎年百廿日東京靖國神社宛テ繼續送付其毎年收受概率如シ

基金利子(四分利公債七百圓)

支出

金拾八圓

金五圓

金五圓餘

金五圓

差引約金五圓餘不足

前述不足金在東京會費參拜者會費ヲ補充シ來ルニ以テ殊更之

會費新ニシテ機ニカシ然モ從軍會費漸次減少シ隨テ往時ニ追懷シ舊情
 誼ヲ温メ所志會會念(謝禮、香油)ノ承賜ハ敢テ頼ムベカラザルガ如シ今ニ於テ
 之ヲ顧慮シ此際會費有テ者ヨリ更ニ約三百圓以上ノ基金ヲ増募シ之ヲ
 五分利公債ヲ以テ之ヲ年約拾五圓餘ノ收入增加ヲ圖リ以テ託拜念祭繼
 續ニ遂行ニ便セシス茲ニ生等 榊山與大進各大將閣下ノ旨ヲ體シ此安ホ
 才提出ス會費諸君幸ニ應分ノ誠出アランコトヲ切望ス

山 宇 摺
根 佐 澤
武 川 靜
亮 一 夫

田原鏗一殿

熊本龍城記念祭基金増募要旨

熊本龍城記念祭基金別紙甲号通り重ネテ之ヲ述ルテ要キ公依是明治廿五年基金ヲ購出七百圓公債ヲ得テ之ヲ東京信託社豫管ヲ托シ別紙乙号(通)利子以テ毎年百廿百東京靖國神社迄夢繼續來リ其毎年收受額如シ

次入

金貳拾八圓

基金利子(四分利公債七百圓)

支出

金拾八圓

祭只費(神饌、神職、弁當、其他)

金五圓

通信費(將來増加見込)

金五圓餘

參拜者分配供物料

金五圓

常任幹事心附(餘拾圓將來)

差引約金五圓餘不足

前述不足金在東京會員參拜者會費ヨリ補充シテ以テ殊更之

本會實ニ諸君ノ機ヲモリシ然生從軍人會實漸次減少シ隨テ往時ノ追懷シ舊情誼ヲ温ル所由實會念(調)油酒ノ承續ノ敢テ頼ムベカラザルカ如シ今ニ於テ之ヲ顧慮シ此際會員有志者ヨリ更ニ約三百圓以上ノ基金ヲ増募シ之ヲ五分利公債ヲ以テ年約拾五圓餘ノ收入增加テ圖リ以テ託拜念祭繼續遂行ニ便セシス茲ニ生等榊山奧大迫各々大將閣下ノ旨ヲ體ヒ安ホヲ提出ス會實諸君幸ニ應分ノ職出テランコトヲ切望ス

大正六年二月

日

熊本龍城記念祭基金増募委員

宇佐川一正
山根武亮
摺澤靜夫
與倉喜平
出石猷彦

熊本籠城會紀念祭、主旨
西南戦後ハ我國振古未タ見サル所ノ内乱ニ屬シ天下ノ兵ヲ動シ攻防日夜ニ涉リ殆ト一年ヲ費シテ僅ニ之ヲ平定スルヲ得タリ抑モ明治維新ノ業夫レ偉ナリト雖モ施政日尚ホ淺ク内外多事ノ時ニ當リ聲望高キ西郷南洲翁カ征韓ノ議客ヲレス冠ヲ挂テ薩南ニ歸卧スルヤ朝野ノ名士其跡ヲ追フモノ多ク人心恟々戰ノ遂ニ避クヘカラサルコトヲ知レリ巴ニシテ翁ハ萬夫不當ノ健兒ヲ挾ミ明治十年二月二十二日ヲ以テ熊本城ヲ圍ミ一氣ニ之ヲ屠ラントシ勇猛當ルヘカラス城將谷鎮台司令長官樺山參謀長等ト相謀リ豫メ守城ノ準備ヲナシテ之ニ抗シ且ニハ即チ整壘ヲ築キ夜ハ即チ戈ヲ枕ニシ粟粥ト斃馬ノ肉トニ飢ヲ凌キテ五十餘日ノ久シキニ及ヒ以テ敵ノ作戰ニ大頓挫ヲ與ヘタリ小倉分營兵ハ二中隊ヲ守城ニ他ハ乃木聯隊長ノ指揮ノ下ニ他ノ外援兵ト共ニ田原木留ノ方面ニ在テ又能ク健闘シ遂ニ敵ヲシテ攻守勢ヲ異ニシ落日蕭々影ヲ城山ニ没スルニ至ラシム若シ夫レ熊本城ニシテ守ラザランテ敵ハ破竹ノ勢ヲ以テ肥筑ノ野ニ臨ミ號令一下セハ四境響應シ勝敗ノ數未タ知ルヘカラサルモノアラシ

甲号

熊本籠城會紀念祭、主旨

西南戦後ハ我國振古未タ見サル所ノ内乱ニ屬シ天下ノ兵ヲ動シ攻防日夜ニ涉リ殆ト一年ヲ費シテ僅ニ之ヲ平定スルヲ得タリ抑モ明治維新ノ業夫レ偉ナリト雖モ施政日尚ホ淺ク内外多事ノ時ニ當リ聲望高キ西郷南洲翁カ征韓ノ議客ヲレス冠ヲ挂テ薩南ニ歸卧スルヤ朝野ノ名士其跡ヲ追フモノ多ク人心恟々戰ノ遂ニ避クヘカラサルコトヲ知レリ巴ニシテ翁ハ萬夫不當ノ健兒ヲ挾ミ明治十年二月二十二日ヲ以テ熊本城ヲ圍ミ一氣ニ之ヲ屠ラントシ勇猛當ルヘカラス城將谷鎮台司令長官樺山參謀長等ト相謀リ豫メ守城ノ準備ヲナシテ之ニ抗シ且ニハ即チ整壘ヲ築キ夜ハ即チ戈ヲ枕ニシ粟粥ト斃馬ノ肉トニ飢ヲ凌キテ五十餘日ノ久シキニ及ヒ以テ敵ノ作戰ニ大頓挫ヲ與ヘタリ小倉分營兵ハ二中隊ヲ守城ニ他ハ乃木聯隊長ノ指揮ノ下ニ他ノ外援兵ト共ニ田原木留ノ方面ニ在テ又能ク健闘シ遂ニ敵ヲシテ攻守勢ヲ異ニシ落日蕭々影ヲ城山ニ没スルニ至ラシム若シ夫レ熊本城ニシテ守ラザランテ敵ハ破竹ノ勢ヲ以テ肥筑ノ野ニ臨ミ號令一下セハ四境響應シ勝敗ノ數未タ知ルヘカラサルモノアラシ

大正六年一月

熊本籠城會幹事

甲号

熊本籠城會社紀念祭

熊本籠城會社紀念祭... 明治三十五年...

乙号

熊本籠城紀念祭基金保管約定書

金七百圓

公債證書額面年四分利子附

右ハ熊本籠城戦死者祭典費基金トシテ東京偕行社ニ保管ヲ委託セリ

東京偕行社幹事長ハ右ノ公債証書ヲ日本銀行へ保管預ケトナシ其利子金ハ毎年成規ニ隨ヒ東京偕行社常置幹事ヲシテ受取ラシメ之ヲ當分預リニ組入レ置祭典幹事長ノ照會ニ依リ東京偕行社幹事長ノ承認ヲ得テ之ヲ交付セシムルモノトス

但日本銀行保管預ケニ係ル手数料ハ右利子金ノ内ヨリ支辨スルモノトス
右永遠ニ實行スルノ證トシテ本書ニ通テ製シ記名調印シ各一通ヲ保管スルモノトス

明治三十五年 月 日

熊本籠城會社幹事長 男爵 奥

保 鞏

東京偕行社幹事長

寺 内 正 毅

熊本籠城紀念祭規約

- 第一條 熊本籠城紀念祭ハ明治十年西南戦役ノ際熊本鎮臺ニ屬シ從軍シタル軍人軍屬及地方官警察官ニシテ當時戦死病死シ及其後死亡シタル者並將來死亡スル者ヲ祭祀スルモノトス
- 第二條 本紀念祭ハ毎年二月二十二日靖國神社ニ於テ執行スルモノトス
- 第三條 會員タル者ハ第一條ノ從軍者中現今生存者ニシテ祭典費ノ基金ヲ贖出シタル者ヲ以テス
- 第四條 祭祀スヘキ者ノ名簿竝ニ會員ノ名簿ハ各別ニ調製シ本規約ノ附録トス
- 第五條 祭祀スヘキ者ノ名簿ハ前條名簿ノ外別ニ一冊ヲ製シ祭典用トシテ靖國神社宮司ニ保管ヲ囑托ス

第六條 會員中死亡シタル者アルトキハ直ニ其遺族又ハ親族等ヨリ其死亡月日及官等位勳爵ヲ東京市麹町區靖國神社宮司ニ通報スルモノトス

靖國神社宮司ハ前項ノ通報ヲ受ケタルトキハ祭典名簿ニ死亡者ノ官位勳爵氏名及年月日ヲ登記シ而シテ毎年祭典執行ノ際幹事ニ報告スルモノトス

幹事ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ會員名簿ニ死亡ノ年月日ヲ記入シ而シテ祭典名簿ニ登記スルモノトス

第七條 本祭典費ノ基金ハ之ヲ公債証書トシ此公債証書ハ別紙約定書ニ基キ東京偕行社幹事長ニ保管ヲ囑托ス

第八條 前條公債証書ニ對スル利子ヲ以テ祭典執行ノ諸費ニ充ツ

第九條 在京會員ハ本祭典ニ係ル一切ノ事務ヲ整理セシムル爲メ毎年祭典ノ終リニ於テ次年ノ幹事長及幹事ヲ撰定ス

第十條 幹事ハ毎年祭典執行前新聞ヲ以テ祭典執行ノ事ヲ廣告シ遺族ノ參拜ニ便ナラシム

第十一條 遺族ニシテ參拜シタル者ハ其ノ遺族ナルヤヲ取亂シ然ル後神饌ヲ交附ス

第十二條 在京ノ會員將リニ盡ントスルトキハ其會員ニ於テ最初會員名簿ニ登記シタル會員ノ遺族ニシテ在京セル者ト商議シ之ヲ該遺族ニ引繼クモノトス此場合ニ於テハ該遺族ハ本規約ニ準シ永遠ニ本祭典ヲ執行スルノ義務ヲ有ス

第十三條 本祭典ヲ永遠ニ執行スル爲メ本規約ニ通テ製シ本會幹事長及靖國神社宮司記名調印シ各一通ヲ保管スルモノトス

明治三十五年 月 日

熊本籠城會社幹事長 男爵 奥

保 鞏

靖國神社宮司

賀 茂 水 穂

東京會員の本祭典ニ附シ一付ノ事務ヲ整理スルニシテ、毎平祭典ノ終リニ休モ出平ノ特
種ノ事務ヲ整理スルニシテ、毎平祭典ノ終リニ休モ出平ノ特
種ノ事務ヲ整理スルニシテ、毎平祭典ノ終リニ休モ出平ノ特

東京會員の本祭典ニ附シ一付ノ事務ヲ整理スルニシテ、毎平祭典ノ終リニ休モ出平ノ特
種ノ事務ヲ整理スルニシテ、毎平祭典ノ終リニ休モ出平ノ特
種ノ事務ヲ整理スルニシテ、毎平祭典ノ終リニ休モ出平ノ特

東京會員の本祭典ニ附シ一付ノ事務ヲ整理スルニシテ、毎平祭典ノ終リニ休モ出平ノ特
種ノ事務ヲ整理スルニシテ、毎平祭典ノ終リニ休モ出平ノ特
種ノ事務ヲ整理スルニシテ、毎平祭典ノ終リニ休モ出平ノ特

東京會員の本祭典ニ附シ一付ノ事務ヲ整理スルニシテ、毎平祭典ノ終リニ休モ出平ノ特
種ノ事務ヲ整理スルニシテ、毎平祭典ノ終リニ休モ出平ノ特
種ノ事務ヲ整理スルニシテ、毎平祭典ノ終リニ休モ出平ノ特

東京會員の本祭典ニ附シ一付ノ事務ヲ整理スルニシテ、毎平祭典ノ終リニ休モ出平ノ特
種ノ事務ヲ整理スルニシテ、毎平祭典ノ終リニ休モ出平ノ特
種ノ事務ヲ整理スルニシテ、毎平祭典ノ終リニ休モ出平ノ特

追啓陳、多般總本務博會カ多名爲、
者之、
由託載之上、
敬具

大正六年四月廿二日
總本務博會幹事 山根茂亮

NO

山砲兵第三大隊 日誌

明治 年 月 日

金子百圓

漁本藩城跡念祭基金助會贈與書

大正六年四月廿二日
山縣為長
漁本藩城跡念祭基金助會
贈與書
此書係由本藩城跡念祭基金助會贈與貴會之書也
其書中載有本藩城跡念祭之經過及本藩城跡念祭之
意義等事
本藩城跡念祭之經過
本藩城跡念祭之意義
本藩城跡念祭之經過
本藩城跡念祭之意義
本藩城跡念祭之經過
本藩城跡念祭之意義

興 幸 日

大砲三挺

NO

明治十年二月十八日

本年一月未鹿見山島縣士族私學校江嘯集シ全
縣下儀海軍造船場ニ格護、彈藥總テ掠集シ
犯法相題ニ態本鎮臺ヲ襲撃スル、景況ニ付本
日午後二時二十分非常号砲ヲ以テ当城、周田各兵
ヲ配布セラレ保塁ヲ建築シ警備ヲ十又本隊及ヒ豫備
砲兵第三大隊ニ在テハ特技以下人員合從ニ分任、如シ

城内飯田丸

野砲 二門

廿梅白砲一門

少尉 試補 村上 慧

下士 以下

下馬橋
山砲一門

曹長
下士以下
貴志永吉

縣廳

山砲二門
廿梅田砲一門

十二梅田砲一門
但三續郎二備
中尉 高山信明
下士以下

法亭
山砲一門

少尉 誠補田原鑑一
下士以下

藤寄

野砲二門
二十梅田砲一門

山砲一門
大尉 村井長寛
下士以下

片山郎

山砲一門
十二梅田砲一門

大尉 佐乙女英武
下士以下

野砲營

野砲一門
山砲二門

少尉 試補 河井 令信
下士 以下

埋門
山砲 二門

少尉 試補 佐藤 栄信
下士 以下

千葉城

塹砲 一門
山砲 一門

少尉 小出 正道
下士 以下

本隊及豫備砲兵第三大隊、豫備隊、奉天、
田丸砲臺、司令、兼又

大尉 中井 應義
附屬

火工 下長
器械 檣
火工 卒
砲 取 卒

本隊

大隊長 大尉 塩屋 方田
副官 少尉 出石 敏之
會計官 會計一等書記 中谷 浩
軍醫 西 軍醫 補 佐藤 義範
馬醫 馬醫 副 下 文 翔
全 馬醫 補 下 盛 武

全 一等馬醫生中村彌
下副官 大隊書記 會計府屬
病室域 喇叭仕長 炊事域
其他下士兵卒
心營注意

少尉 富山茂郎
少尉 誠補大須賀利勝
少尉 誠師長澤手之助

歩兵第一三聯隊第一大隊第一中隊當隊東南外圍為
警備出張相成候事
非常二年徒刑人當隊へ附屬彈薬及糧食等運搬
之用ニ充ツ

同十九日

本臺焼矢續テ熊本市街焼矢本日當縣下水泉地
島道へ當縣士族囂集之趣ニ付警備尚一層注意スルキ
ニ付達セラレ

今日

本日市川サ尉徴兵副トシテ出張、如非常ニ付引返帰隊
與見寫縣賊徒熊本鎮台へ襲撃手之趣ニ付征討被
仰出

百柄川宮儀征討終費トシテ御出張相成ルルキ旨
達セラレ

警備視隊當營へ入室歩兵隊トモニ東南ノ方位ヲ警備
スルキ丁達セラレ

本日市川サ尉中井大尉へ附屬彈薬ホノ分配ニ注意ヲ
示ス

全世一日

午後一時拾分我城、南方白川向堤、賊徒數百名、敢正
別スルヲ見視シ城內飯田丸砲臺ヨリ野砲榴彈射撃手
入賊直ニ散乱シテ應セズ依テ我兵砲臺ヲ昌メ益敬言戒ラ
嚴ニス全夜九時頃ニ全所ヨリ市街ヲ見ルニ城、西方細工
町近傍炬ヲ携テ賊奔走スル、形状ニ付塹砲榴彈ヲ再
ニ放テ彼ノ景状ヲ探ルモ敢テ應セズ全日午後二時藤崎砲
臺ニ在テモ目視スルニ賊數十名花園山頂ニ登テ我城內ヲ窺
視スルノ景況ニ付直ニ塹砲榴彈若子ヲ放テ粉砕セシトスル
ニ賊應セズ、色ナシ又塹砲管連發所ニテモ午後二時三十分
島崎村及赤尾口近傍ニ賊兵出役スルヲ見直ニ山砲ヲ
以テ榴彈ニシテ砲スルモ彼又應セズ唯散乱ス

全世二日

城內飯田丸砲臺午後七時高田原近傍ニ賊散兵ヲ配
布シ襲、状況ニ付我兵野砲ヨリ榴彈及榴霰彈ヲ砲射
ス全時賊銃ヲ盛ニシ斬々進テ旧花園近傍、地物ニ據リ
砲火最甚シ故ニ下馬橋ヨリモ榴彈ヲ連射シテ拒戦ス全
七時二十分、頃ニ安政橋ヨリ千葉城、方位ニ向テ銃隊ノ行
進スルヲ見城內飯田丸ヨリ野砲ヲ砲シテ行進ヲ妨支ス
全九時旧花園近傍ノ賊稍退却シテ砲火衰フト虽トモ終
日小戦止マズ此日城內ニ在テ幸安民留吉戦死ス
縣廳于前七時賊山崎及新町邊散兵ヲ配布シ襲
来ル我兵砲銃ヲ以テ應撃ス于時賊近接スル、野ニ付益
砲火逞シ防支スルヲ以彼ノ進ム能ハズ對戦スト虽午後五時ニ
至テ退去セリ全日午前九時、頃ニヨリ片山邸若殿、趣
ニ自十二冊田砲一門軍曹木村母徳等五名ヲ全所ニ遣リ

應援ス此日午前賊軍舟赤旗ヲ振り味方ト呼ビ我守
線ノ下壘方ヨリ法花攻ニ向テ進ムヲ見歩兵隊及巡査隊ト
共ニ小銃ヲ発シテ射殺ス其後死體ヲ接スルニ日記ヲ所持
昭中少隊長宇都宮某ト書シ百之其他數件記録スルヲ
以テ大ニ賊ノ形状ヲ知レリ當日傷者幸テ拓本當吉其他死傷
十三

法花坂 午前縣廳ノ周戰ニ續テ之概六百乃至七百
歩突ノ距離ニライテ新町方位ヨリ急撃ヲ来シ我兵直
ニ戰備ヲ整エ福霰彈ヲ發シテ應戰ス全九時頃賊發
火ヲ止ム全午前十一時頃少尉誠補長沢子之助全田原鑑
一ト交換シ此地ヲ守リ田原少尉誠補ハ片山邸ニ至テ應
援ス

三藤寄 午前七時四方地村及花園山ニ賊出沒シ

戰備スル、夜状ニ付我砲臺ヨリ山笠砲及旧砲ヲ發シ
テ攻撃スルニ賊兵西南田畑ニ散兵ヲ配布シ溝或ハ
家屋等ノ地物ニ據リ盛ニ應戰ス全九時頃彼兵
員ヲ増シ激戰以テ我砲臺ニ迫ル依テ我兵各種ノ彈
ヲ射撃シテ拒戰ス于時片山若戰ノ報ヲリ直ニ山砲一門
伍長安岡正義兵若于同所ニ分派應援セシム于后
六時頃賊勢稍衰ハ退却スト亟ニモ發射ノ時間ヲ緩ニシ
最ニ戒ヲ加シ全夜花園山及四方地村ハ賊ノ砲臺ヲ建築シ
十一時ヨリ俄然長四ヶ山砲ヲ以テ連發急撃ヲ續テ銃火
ヲ大ニシ再我守地ニ迫ル我軍銃砲ノ火力ヲ逞ニ防戰最ニ力ム
此夜十二時ニ至レモ連發ノ止ム

片山邸 午前七時我守地ノ南面田畑及殿山ノ地方ヨリ急
撃ヲ来シ我兵山砲及旧砲ヲ發シ之ニ應ス歩兵銃火

烈シクシ共ニ拒戦之全九時頃ヨリ賊段山ニ兵ヲ増加シ発火
猛烈厚丸雨注狙撃手頗ル密ニシテ我軍若戦死傷多
シ故ニ軍曹米良信定ヲ藤寄ニ遣リ山砲一門、増加ラセ
直ニ山砲一門及兵卒若干ヲ伍長安園正義引テ去リ
應援之是ヨリ先キヤ討誠補田原鑑一及鞆ヲ守備
セシ軍曹平村丑徳兵卒若干旧砲一門又本隊ヨリモ兵卒
数名来リ應援之良益憤激防支最カム于后三時ニ至
リ賊勢挫テ発火少シク減スト虽戦闘未全止ス全八時
我兵ノ疲労ヲ察シ埋門守備ノ少討誠補佐藤栄信
以下ヲ以テ此守ヲ交換セシメ大尉左乙女英武以下埋門ニ轉
陳ス全十二時、復テ島寄村ノ砲臺ヨリ賊大砲三門ノ
連射ヲ十ニ再銃火ヲ烈シクシテ大ニ攻撃ス我軍砲銃
ノ発火ヲ猛烈ニシテ拒戦ス此日我隊ノ死傷此ノ如ク少

討誠補田原鑑一軍曹武田信泰伍長奥村善市卒
荒牧壽市栢山安太郎里川手吉永瀬周助長村房
太郎河畑重太郎岩丸々幸傷ヲ請又軍曹米良信定
伍長安園正義卒野中作吾上田作手吉村直次戦死ス
野砲營 于前七時日向寄近傍ヨリ賊散兵ヲ以襲
来ル我兵山野砲ヲ発シテ應戦ス暫ク在テ賊凡一十隊
討リ日向寄村ヲ発シ同方向田畑ノ溝中ニ入り銃火シ先進
ノ賊ハ段山ニ入り片山邸及我砲臺ニ向テ狙撃ス又日向寄
村ヨリ島崎村ニ向テ賊凡一中隊討リ行進スルヲ見直ニ整砲
ヲ発スルニ福澤賊中ニ炸烈シ斃死ル者アリ大ニ復復ノ伏ニ
テ二部ニ分レ一日日向寄村ニ退キ一ハ島寄村ニ退リ午后二
至ルモ島寄村ノ賊類ニ発火シ終日戦闘止マズ此日軍曹
若林茂傷ヲ受ク

埋門 于前八時錦山神社ノ方位ヨリ二三百米宛ノ
地ニ賊迫リ来リ刺シテ銃殺シ我隊山砲ヨリ霰彈ヲ放テ
退去セシム于后ニ至リ休戦此夜九時大射佐乙女英武以下
交換シテ此地ヲ備ル

千葉城 于前七時城内飯田丸ヨリ砲発スルヤ我守備ノ東
南及厩橋ニ通ル向岸ヨリ賊俄突発砲我守ニ迫ル依テ
山野砲ヨリ各種ノ彈ヲ發シテ防戦ス今九時少射出正直
股ニ銃割ヲ被リ少射市川孝從代リテ此地ニ至リ拒戦シ
益々砲壘ノ修理ヲナシ福澤及福霰彈ヲ發シ賊勢ヲ挫
クヲ以テ彼遂次ニ退却今四時ニ至リ銃声過ム今夜通リ町
近傍ノ倉庫ホニ居匿シ時ニ我ヲ狙撃スルモ襲撃未ル
ノ色ナシ我軍ヨリ間銃發シテ警戒ヲ加フルノミヨリ
傷者少射ヲ出正直幸野方来吉從刑人椿八重藏ナリ

同廿三日

城内飯田丸 昨夜未賊日花畑近傍地物ニ據リ攻撃
ス我砲臺ヨリ山笠砲及旧砲ヲ發シテ賊ヲ掃蕩セントス于
前六時ニ至テ賊退去ニ高田京地方ヨリ時々発火ス于后一時花
園山ノ賊壘ヨリ我城壘ニ向テ砲撃ヲナシ当砲台ヨリ野砲ヲ發シテ
之ニ應シ終日戦鬪止マヌ

下馬橋 サ射富山茂郎出張シ白砲一門増加下馬橋後上
槽跡ニ砲床ヲ設ケ貴志曹長ヲシテ指圖セシメ下馬橋ニ備ル
山砲ト共ニ下通り町及旧花畑近傍ヲ射撃スルモ山砲ヲ備ニ在テハ
卑クシテ彈着ヲ確知スル能ハス功リサキヲ以テ発火ヲ止ム其后
賊再近接シ迫ル狀アリ福霰彈ヲ發シテ退散セシム
驛廳 于前六時塩屋町方位ヨリ賊散兵ヲ布キ我守地
ニ近接ス我軍銃砲ノ力ヲ逞シ防戦ニ暫在テ悉ク退去

又今七時花園山、賊壘ヨリ砲三門ヲ以テ我砲臺ニ向テ頻リニ砲
撃テス依テ我壘ヲ脩覆益堅固ニシテ藤崎及城内ト共ニ賊壘
ヲ撃破セシ爲メ終日砲火ス

法華坂 予前三時、頃ニ新町方位ヨリ賊襲来ニ銃射
甚シ依テ我兵插霰彈ヲ発シテ應戦ス又十笠原邸及古城
ノ銃火猛烈ナルヲ以テ賊近避易シテ退散ス全予后二時花園
山、賊ト砲戦凡二時間ナリ

藤崎 昨夜来賊花園山及四方地村、砲台ヨリ頻リニ砲撃ス我軍
猛烈、放火ヲナシ拒戦數時ニ滿レリ彼火カラ星シ頻ニ攻ルモ我
軍撓クモ益々力ヲ大ニスルヲ以テ彼勢ヲ挫キ是ニ於テ砲之ヲ止
ム又昨夜建築セシ賊、砲台^{花園山}拂曉ニ至テ確然見認ラ得
野砲及トセ世田砲ヨリ激烈ニ発放ス賊又之ニ應ズルニ再猛ク
ヲ以テ予時我砲台ヨリ発セシ野砲插霰彈四方地村砲

台ニ在リ砲車ニ觸ダシ車臺一個ヲ撃破スルヲ見タリ此日戦闘
予后四時ニ止テ止ム傷者予増田賀茂次郎、三

片山邸 昨夜来砲撃猛烈我軍稍苦戦依テ砲台ヲ益堅
固ニシ防戦最力カム戰中予前一時、頃ヨリ大概ニ時間激戦彼
我ノ火声恰白雷、如クニシテ天地震動ス全三時、頃ヨリ銃声稍
衰ト金氏段山、要地ヨリ我ヲ狙撃テ最モ密ニシテ死傷多
シ此日予前八時サ射誠補佐藤宗信有奇ニ銃割ヲ破リ全
官田原鑑一文換入當日死傷左、如シ軍曹永井黙予弟子丸
石吾銃傷予高倉未吉戦死ス

野砲營 予后一時日向崎村及島崎村今京町邊ヨリ
賊四散シク攻襲ス未ル我兵野砲ヨリ插霰彈ヲ発シテ拒戦ス又
歩兵銃火ヲ大ニシ共ニ防支ス凡二間余ニシテ激闘止ム予后本妙寺
ニ賊此集スルヲ視察シ山野砲ヨリ插塊ヲ填セシ插霰彈ヲ発

シテ家屋ヲ焼滅セントス當日雇夫河野原手便役中銃備ヲ
請タリ

千疊城 拂曉賊東南、方位ヨリ散兵ヲ以急ニ襲来ル
我軍銃砲ヲ発シテ應戦ス又彼、後隊我砲台、東南凡六、百
歩突、地ニ在リ或ハ正東二千歩突ニシテ堡塁、裏ニアリ或又北方
ニシテ寺原、方位ニ集屯スルヲ知リ各砲、方向ヲ異ニシ急射
ステ時賊原降兩、如クニシテ稍苦メ共猶火カラ大ニ拒戦
ス我銃火、為メ彼侵襲スル能ハス全十時ニ至テ漸ク稍退却ス
午後一時正東ヨリ再襲来ル我軍戦防前、如ク此時賊勢
最強ク我軍稍苦戦ニ依リ山野、砲ヲ類ニ発シ火カラ是
スルヲ以テ彼漸ク逐時ニ退キ終ニ射撃ヲ止ム全夜、襲
ノ内方位ヨリ近接ニ倣突急撃スルニ依リ我歩兵銃
火ヲ逞シ又各砲ヨリ霰彈ヲ発シニ彼一時敗走、是景況

ヲ表シ丘傍地物ニ厝シ再迫リテ我台下、川ヲ徒涉セン
トス依テ歩兵猛烈、発火ヲナシ砲兵霰彈ヲ発射ス又喇叭及
口笛ヲ以テ賊兵員ヲ増シ襲撃スルニ我防支最勉ムヲ以テ
彼進ミ得難キヲ察シ退散シテ跡ナシ

同廿四日

城内飯田丸 午前三時頃高田原方ヨリ賊僅ニ銃ヲ発シ
我ニシテ、榴彈ヲ放テ之ニ應シ暫時ニシテ発火ヲ止ム午後ニ至テ
花園山、賊、砲戦スルノ二時間余ナリ

下馬橋

城内飯田丸、景状ニ全シ

縣廳

午前三時山崎、方位ヨリ僅ニ襲来ル直ニ交

戦ニ時間余ニシテ彼退散ス午後花園山、賊、塁ニ向テ數回砲
撃ス

法花坂

午前八時花園山、賊、塁ヨリ砲発ス藤吉可

砲台に共ニ彼墨ヲ攻撃シテ破壊セントス戦丁凡五時間ニシテ休戦

藤寄

午前九時賊襲来ル又花園山及四方地村ノ砲台ヨリ頻リニ砲撃ス我守ノ歩兵直ニ銃ヲ射テ之ニ應ス我隊ニ在テハ花園山及四方地村ノ賊墨ニ向テ緩ニ砲撃ス一時ノ頃ニ四方地村ニ向テ発シ野砲榴弾最適應ノ巨砲ニ炸烈シ偶火薬ノ焼燬登ルヲ見之レ時賊ノ火薬ニ火ヲ点スルヲラレ午後四時休戦而現今賊状ヲ察スルニ去ル世二日未彼屢々猛烈ノ攻撃ヲナスモ我軍勇憤防拒スルヲ以テ我城ヲ陷ス能ハセルヲ知り大ニ勢ヲ挫折スルノ形状ナリ

片山野

午前九時賊徒襲来リ銃火大ニシテ彈丸兩注依テ我軍ヨリ銃砲ヲ發シテ防戦凡三時間ニシテ

止ム當日ハ討議補田卓盡一法花改守備、官長泥子、助ト交換ス

野砲營

賊本妙寺ニ屯集スルヲ知り午後ニ至リ砲發スレモ彼應セズ

埋門

埒丹島町方位時々煙ノ登ルニ賊ノ攻事場ト知リ山砲及世拙田砲ヲ放テ之ヲ探ルモ彼應セズ

牛草城

丰明賊僅ニ銃ヲ發シテ襲来リ形状ニ付直ニ守備スルニ既ニ我砲台ニ近接ス依テ霰彈ヲ急射シ又歩兵銃火ヲ烈シクシ漸ク退散セシム暫在テ其丘傍ヲ探ルニ賊ノ死屍七個一ハ首級ヲ持去リ又三四百歩突、地ニ流血七八ヶ所ナリ又午後埒丹横町倉庫物品ヲ掠奪スル景況アリ故ニ榴彈ヲ發シテ彼ヲ逐フ又砲臺、正東ニ二百歩突、地ニ設置スル天幕ニ向テ榴彈ヲ發シ彼ヲ掃除ス其后本妙寺山脉東北ニ當ル村落ニ子

五百家突ニ指擲三個ヲ放ツニ賊狼狽シテ東奔西走ニ此夜猶
敬言戒スルニ尊賊モ見ヌ

此日更ニ午后天町家枝へ賊屯集スト、聞マリ依テ城内宇
土槽丘傍ノ地ヲ獲ヒニ于拇田砲ヲ備工教伺ヲ擲擲シテ彼ノ
泉窟ヲ燒滅セシトス

同廿五日

本日各方面方派ノ將校位置ヲ交換セシム

轉馬ヨリ城内飯田屯ニ 少尉 富山茂郎

城内飯田屯ヨリ野 少尉 誠補村上 慧

法花坂ヨリ下馬橋 全 田原 鑑一

寺原ヨリ法花坂 全 大須賀 利勝

野砲營ヨリ本 全 河井 令信

城内飯田屯 午前八時頃花園山ノ賊ト砲戦凡

二時間余其后彼ノ地哨兵ヲ見ル、三全時八王子村近傍
賊溝頭出波シ釋示等ヲ運輸スルヲ見直ニ野砲ヲ放テ之妨
支ス

下馬橋埋門 休戦異事ナシ

縣廳 續野ニ備ル日砲ト共ニ時々花園山ノ砲台ニ向テ

砲戦ス 花園山ノ賊壘ヨリ時々指擲ヲ射撃スルモ我守

法花坂 地專クシテ利アラザレバ以テ應セズ

藤寄 終日彼我ヨリ不意ニ砲火ス此日花園山及ニ四方

地村ノ賊砲各一門ヲ滅ス運輸ノ方向尋ナラス

片山邸 飯山ノ賊ト相立ニ狙撃スル、三異事ナシ

野砲營 本妙寺近傍六百家突ノ地ニ民家アリ賊之ニ屯集スル

形状マリ我野砲ヨリ火境ヲ填セシ擲擲ヲ砲シテ民家五六

軒燒亡ス

千葉城

終日皆テ戰鬪ヤク賊四五名三百乃至五百
突、地ニ嚙躰シ時ニ銃砲ノ子后一時頃我正北凡ニ子家突、地
ニ於テ賊砲煩ヲ取シ行進スルヲ見野砲搦彈ヲ発シテ行
進ヲ妨ケ又全方向凡ニ子七百家突、地砲台ヲ建築スルヲ見搦
彈數回ヲ発シテ彼、作業ヲ妨害ス

同廿六日

城内飯田丸ヲ前八時本庄村丘傍及八王子村四ニ於テ賊
數十名物品ヲ運輪スルヲ視而所ニ向テ野砲ヲ発ス子后ニ至テ
散乱ス全八時安政橋方位ヨリ但撃子急ナリ依テ七冊旧砲
搦擲シテ散乱セシメタリ幸今村熊次郎負傷

下馬橋 休戦

縣廳

山崎操練所、傍賊六七名出沒スル在リ臼砲

ヨリニ発シテ彼ヲ散馬カシム

法花坂 午前六時賊數十名花園山ニ集合スルヲ見直ニ二ノ
搦彈ヲ放テ散乱セシメタリ

藤壽

休戦 砲管埋門の上

守山邸

能場、丘傍民家ヲ火ス此日全町、方位ヨリ終日

彈丸来ル

丁甚シ全所ニ向テ搦彈ヲ発ス

千葉城

午前十一時、復ニ賊前日、地部ニ於テ砲台、作業ヲ

ヲ始メ向テ搦彈ニ発ス于時、撃テ之ヲ庇護スルノ
景況ヲ見子后三時我東北子三百家突、距壽ナル寺中彼、火事
場在ルヲ聞キ搦彈ニ発シテ之ヲ探ルモ彼、應セズ又正東五百家突
倉庫ニ賊、出沒スルヲ視火砲ヲ填セシ搦彈ニ向テ放射
シテ之ヲ燒ク

同廿七日

城内飯田丸 午後二時頃ヨリ予及畑予草学校ニ賊屯集
シテルヲ以テ歩兵二中队巡査一小隊進撃ヲナシ野砲ヲ放テ
シテ應援ス全四時安己橋丘傍ヨリ烈シク銃撃ヲシ山砲ヲ発
射シテ之ヲ走ラヌ全時埒井横町賊集合スルニ依リ城内櫓燒跡
ニ山砲ヲ備ヘ撃破スヘキ旨參謀部ヨリ命マリ直ニ山砲一門ヲ
備ヘ砲撃スニ暫ク在テ進撃シ諸隊攻撃スルヲ以テ發テ止ム全
六時進撃シ諸隊引揚戦間止ム全時旧守地ニ山砲ヲ復ス
下馬橋森藤藤寄野砲營休戦無事

法花夜 午後五時歩兵若干名高麗門丘傍賊ノ形状ヲ
探シ爲シ全時ニ向テ時賊四丁名討リ急ニ銃撃ス歩兵直ニ引揚
我隊山砲ヲ發シテ散乱セシム
予山野 昨夜山段山能場ノ賊ヨリ獲リニハ銃ヲ發ス依テ
我隊ヨリ旧砲ヲ以テ戦須更ニシテ之ヲ挫キ其後異事ナシ又

予日午後四時頃賊ヨリ發放ニキ戦ス其時野砲營ノ方ヨリ
砲彈来リテ賊ノ彈藥ヲ火ス
野砲營 賊兵来リ侵スナシ飯山ニ向テ僅ニ野砲ヨリ榴彈ヲ
發ス
埋門 午後歩兵隊予及畑方位ニ進撃スルヲ以テ我守ノ砲ヲ
埒井方向ニ備ヘ歩兵隊引揚ニ當テ賊ノ進撃ヲ防~~技~~スルニ
供ス全五時予歩兵隊引揚ニ及ンテ早シテ賊進撃スルノ狀
ニ付榴彈四個ヲ放テ之ヲ防支ス
予葉城 午後二時過キ歩兵二中队巡査一小隊既橋ヨリ我砲
台ノ東予草学校ニ向テ進撃ス依テ我隊山野砲ヲ以テ五百ヤリ
突ナル家屋及賊ノ小屋ニ向テ榴彈及榴霰彈ヲ發シ歩兵進
撃ノ道ヲ開ケ全六時進撃シ諸隊引揚ニ及テ又山笠砲ヲ發
シ賊ノ進撃ヲ防支ス暫ク在テ諸隊皆我砲臺ニ歸リ之ニ於

テ戦ヲ過ル

同廿八日

各方向分派、將校寺地ヲ轉ス

千草城ヨリ野砲營

城内ヨリ本隊

法花坂ヨリ片山邸

片山邸ヨリ下馬橋

下馬橋ヨリ城内

野砲營ヨリ法花坂

本營ヨリ千草城

小尉市川孝造

小尉富山茂郎

小尉誠補大須賀利勝

小尉長沢子之助

小尉誠補田原鑑一

小尉誠補村上慧

小尉河井令信

城内飯田丸

終日賊兵ヲ見テ午后四時三十分長六橋

止傍兵凡一小隊集合スルノ狀ニ付野砲ヲ發シテ之ヲ掃

除セントス發レモ其位地充分ノ展望ナキヲ以テ彼ノ拳銃

ヲ見ル能ハス

下馬橋並砲營

埋門休戦

縣廳

長六橋向學校内ニ賊兵屯集スルヲ知リ僅ニ山砲ヲ放

テ之ヲ攻ム徒刑入深江經吉負傷

法花坂

花園山賊墨ヨリ搦陣ヲ放テ我寺ヲ攻ム山砲搦

陣ヲ發シテ之ニ應ス須臾ニシテ休戦

藤寄

午后三時四時地、賊墨ヨリ砲撃ス依テ直ニ開戦暫

時ニシテ休戦

千草城

終日戦鬪ナシ唯賊哨ノ徘徊スルヲ見ルニ

本日 御達マリ

軍用必須ノ地隈リニ諸物品ヲ運輸不相成ハ素ヨリ法則モ

有之且賊、棲處或ハ我軍ノ展望ニ害アル外人家家屋倉

庫亦士官、命令ヲ漫ニ放火致間敷棟各自注意可致

詢達候事

三月一日 向号義経 谷号 芳野

城内飯田丸 午前十二時三十分頃安政橋止賊兵集此
ニ依リ野砲ヲ放テ賊ヲ散乱セシム午後三時三十分花園山
ノ賊壘ヨリ榴弾ヲ急射ス然レモ弾力微弱ヒテ我砲台
達セス幸ニシテ壘中ニ落リ我隊ヨリ、壁砲ヲ以テ應撃ス
着頗良ナレモ未タ砲台ヲ破壊スルニ至ル

下馬橋 休戦 景况花園山賊数名出汝スルヲ見午後

ニ至リ彼ヨリ砲撃スレモ我隊宜カラ^テ以テ應セス其他近傍
異事ナシ

縣廳 法花政 野砲堂 埋門 休戦是情ナシ

藤寄 午後三時三十分ヨリ賊四方地村、砲台ヨリ大ニ砲
撃ス直ニ閑戦凡一時間ニシテ戦ヲ止ム

片山邸 午後三時三十分四方地村砲台ヨリ砲撃スル事最モ烈

ニ我兵之ニ應ニ戦シ凡一時間余能場ノ賊情異事ナシ

千葉城 終日戦闘ナク午前十二時頃我砲台、東北七百米突ノ

巨砲ニ於テ賊集此ニテ知リ榴弾ヲ發シテ探ルモ彼ニ應セズ
本日参謀部ヨリ左之通リ達セラル

諸持場夜中之警言戒素ヨリ忽ニスハカラサルハ論ヲ待タヌト雖モ
持久、降急漫、悪不少故ニ不寢番ノ方法ヲ説ケ左、割合ヲ以テ各
持場画一、列ニ徴テ候様可致此旨相達候事

歩兵一中隊ニ付

士官 一名

下士 四名

兵卒 三分ノ一

一小隊分遣ノ場所モ之ニ準又

但砲兵、保護ハ步兵、任ハ虫砲、着守ラヌル爲メ一門、或ハ
二門、間ニ砲卒一名ヲ要ス

又線内人民、倉庫ハ封印相付候間、根リニ閉鎖致間敷事
下ニ達スヘキ事

同日向号 竹 卷号 籠

午后三時三十分花園山、賊墨ヨリ発テ砲彈ヲ二小隊既屋根ヲ
突貫炸裂シ碎片軍馬ヲ白四番麻毛、卷部ヨリ服中ニ入リ発
馬ス

城内飯田丸 午前九時ハ王子村道賊兵凡四百名連續シ
テ往還スルヲ見直ニ野砲ヲ放テ散乱セシム今十一時花園山、賊墨
ヨリ數十回我砲台ニ向テ砲撃ス我野砲ヨリ應射スル事ハ発シテ
休戦ス

片山邸 午前八時段山、賊哨ヲ見發彈一発シテ彼ヲ驚

カシム今十一時島崎村、賊墨ヨリ砲三門ヲ以テ連射又左砲車ヨリ
榴彈ヲ発シテ之ニ應又午后ニ至テ止ム

楚砲宮 本妙寺ニ賊、炊事ノ場在リ剛一二ノ榴彈ヲ發シテ之ヲ
探ル又西北ハ白羊突、地ニハイテ賊、輜重陸續タルヲ見山野砲數
發ヲ放テ之ヲ妨害ス

右、外各方面休戦異事ナシ

同三日向号 柿 卷号 蟹

本日左、通リ達セラル

是日爲探偵高瀬南関也ハ兵戸監嶽指遣候如本日歸台同
所止所々戦争官軍勝利ヲ得不日大挙賊兵ヲ追撃スル、確
報ヲ得タリ依テ以旨相達候条今一層勉勵可致様其部下ニ
無、限可相達候事

本日四方地村、賊隊旗ニ真似シタル物ヲ立テ我ヲ墳墓セシ

ム

城内飯田丸 八王子村屠午塲の近傍賊集合スルノ景況
ニ付午前九時ヨリ掃蕩ヲ放テ散セシム安巳橋辺賊多人數
此集マシ形状ナリ

藤寄前日ニ付

片山邸 午前十時段山ノ家屋ニ火ス此日段山ニ賊ハ肩堀ヲ
築造ス

野砲營 黎明、復我砲台、面五百ヤチ突、巨砲ハ段山
ノ賊ニ向テ掃蕩ヲ放ツモ彼應セズ正午正北ニ背リ千七百ヤチ突
ノ地ニ輻重行進前日、如シ掃蕩ヨリ僅ニ掃蕩ヲ放テ之ヲ妨ク
午後七時頃段山近傍我警言スラ焚ントスルノ際、賊ハ銃ヲ急
射シテ之ヲ妨ク我兵掃砲ヲ發シテ彼ノ銃火ヲ遏シム
千葉城 休戦我砲台、正北ニ千七百ヤチ突ノ地野賊

整頓スルヲ見掃蕩四個ヲ之ニ向テ射撃手ス

右、外他、方面休戦曼情ナシ

十四日 向平梅 谷子馬

不日出征進軍自各方向分派、將校以下守地ヲ支務セシム
城内飯田丸 大尉 中丹 應 美

大下馬 谷城 等附属田、如シ
カ尉 誠 補 田原 鑑 一

下士 三名
兵卒 十八名

花園山ノ賊墨ヨリ終日連続シテ我砲台ニ砲發スト重厚着密
ナラスシテ多我砲台下ノ塲中ニ入り死傷又諸番城ノ破毀ナシ
我ヨリ放テ應撃セズ

下馬橋 休戦

カ尉 誠 補 村上 慧

藥廳

下士 二名

兵卒 八名

中尉 高山 信明

下士 四名

兵卒 二十名

終日賊軍ヨリ二十挺白砲ヲ放テ我ヲ攻ルモ應セズ
法花殿 休戦
少尉 誠補 大須賀 利勝

下士 一名

兵卒 八名

藤等 休戦

大尉 村井 長寛

下士 三名

兵卒 十三名

片山郎 休戦

少尉 市川 孝徳

野砲營 休戦

下士 一名

兵卒 十一名

少尉 誠 河井 合信

下士 二名

兵卒 二十四名

埋門 休戦

大尉 左乙女 実武

下士 一名

兵卒 十一名

千原城 休戦

少尉 誠補 長沢 子之助

下士 三名

兵卒 十三名

本日現在二百九十八名

内譯 將校 十五名

今下士以下徒刑人徒漢馬丁迄二百二十三名
軍馬古出征舟入用數七十三頭

外ニ豫備 二十頭

同日 向子 粟 谷 子 蜘蛛

午前十時花園山賊墨ヨリ發シ十二斤施條四砲福厚當病
室内ニ炸裂シ大ニ破損スト蚤死傷ナシ

同日司令長官ヨリ法令書諭達セラル

別紙法令書諭達ニ及候条不日進軍ノ期ニ至テハ各大隊長

ヨリ部下同ハ會議セシムル様懇々可致吉諭此旨豫テ相達

置候事

明治十年三月廿日

陸軍少將 谷 子 城

陸軍大尉 塩屋 方 田宛

法令

兵員タリ者ハ上官ノ命令ヲ奉戴シ忠誠ヲ奉リシ實義ヲ主トシ
田舎ヲ固守シ萬民ヲ保護スヘキモ、ヤレハ苟モ心得違フ以テ
兵隊ノ名譽ヲ落サ、ラシメニカ爲メ、左、數條ヲ掲ケ預メテ告諭
ス

- 一 上官ノ命令ヲシテ公私ノ家屋山林等ニ放火シ及家屋並物
樹木ヲ毀損スル勿シ
- 一 兵威ヲ恃テ人民ヲ却カシ賊貨ヲ掠奪スヘカラス
- 一 軍用ニ充シ必須ノ米塩等時マテ官之ヲ收取スルヲ令捕ト
誤認シ狼ニ人民儲藏ノ品物ヲ盜取スヘカラス
- 一 人民家畜ノ鳥獸及草菜ノ類、總テ飲食ノ資ヲ擅ニ取ルカシ
- 一 兇暴ニ因テ人民ヲ却避シ及ヒ婦女ヲ強要スヘカラス
- 一 人民ニ對シ強テ會談ニ及ヒ並ニ押シ買押賣スル勿シ
- 一 戦利ノ貨物ヲ盜取スヘカラス

- 一 濫リニ降常ヲ殺勤スルカレ
 - 一 隈リニ陳宮内ヨリ外出シ及徑線外ニ出ルカレ
 - 一 哨兵ニ當テ睡眠ニ或ハ擅ニ守地ヲ去ル可ラス
 - 一 軍ニ在テ叶呼スラ驚ニ及ヒ落説ヲ唱ヘ兵氣ヲ挫ク可ラス
 - 一 酩酊過度ニ及フ可ラス
- 右條々ノ所犯有之モハ嚴科ニ處スヘキ者也

明治十年三月

熊本 鎮守

武益及令捕首ハ総テ會討部中被服謀ニ於テ可取扱旨相達
置候向令捕主、姓名及隊号ノ記載、上可指出旨矣。諸部ヨリ
達セラレ

本日午前十時ヨリ、榎本及高瀬取四村、方位義團激烈、銃
声アリ我援ノ来ルヲ知り、城兵大ニカッ得ル、形勢ナリ

城内飯田丸 前日ニ全ニ午前安政橋也賊徒物品ヲ運輸スルヲ
視ルニ

片山邸 午前八時頃設山ニ居ル、賊ニ向テ十二冊白砲
ニ発ス

右、外各方面異条ナシ

同日向テ 茅 善子 十鳥

城内飯田丸 花園山ノ賊情前日ニ畏ルナリ終日連発スト虫
氏我應射セス安政橋戲場也賊旧砲一門ヲ備ユ頻リニ砲撃手
ス此地ニ向テ榴弾ニ発シ射ス又ハ王子村也賊隊伍ヲ編シ往傷ス
ルヲ視野砲ヲ発シテ散乱セシム彼ノ人員大概四百名トス

縣廳 本日賊ヨリ砲発スル丁数田大砲一門ヲ新屋敷方位ニ
轉シ城内ニ向テ発ス

藤山寄 賊間々銃砲ヲ発ス依テ我砲ヨリ時ニ発ス于前九

時ヨリ于后四時迄植木ノ方位ニ於テ銃声猛烈ナリ

片山邸 昨夜賊最モ近接シテ射撃甚シ我軍直ニ之ニ應ス
本ヨリ至リ戦團ホタ止ス于后西南千步突ラ距ル賊ノ砲台ヨリ砲
撃手入我砲台ヨリ獲ニ榴弾ヲ射撃シテ彼レヲ撃破セシトス
全三時三四榴弾最良ノ巨砲ニ於テ炸裂シ彼群昂シテ発火
ヲ止ム全時段山、賊ニ向テ四砲ヲ抛擲スルモ彼無セス

千草城 午前九時安政橋近傍ヨリ賊二十冊四砲ヲ抛
擲ス其数十二個彼ノ彈着善良ニシテ我兵サシク苦シ正午、
頃ヒ我砲床ノ側ニ於テ炸裂シ歩兵隊ノ伍長一名碎片ニ當
テ負傷ス

右ノ他各方向異情ナシ休戦

同七日向ヨリ 櫻 谷号 較

本日午前三十分ヨリ周囲ノ賊急撃手ニ来ル一時宮内邸

丸飛来ヨリ軍曹武田泰信死シ后病室ニ運送金中佐明
人高橋仁吉銃弾ニ當テ傷ヲ負

城内飯田丸 午前八時三十分安政橋花畑ヨリ賊迫リ来リ

銃弾降雨ノ如シ故榴弾数発ヲ於テ防戦ス凡一時間ニシテ休戦
午后三時前日ノ如ク賊隊伍ヲ編シ八王子村ヨリ北ニ向テ行進ス
ルヲ見榴弾ヲ放テ掃除ス

下馬橋 午前九時頃敵弾ヲ来シテ甚シ然シモ我砲臺ノ地底ヲ
シテ彼ノ所在ヲ見ル能ハス榴跡ノ砲ヲ放テ警備入暫時ニシテ
賊兵発火止ム

鼎廳 午前八時三十分我守ノ三面ヨリ賊龍来リ銃火激烈如之二
花園山ノ壘及長六橋近傍ヨリ発砲ス我軍直ニ之ニ應ス續邸
ヨリ七回砲ヲ抛擲シテ防戦ス全十時十五分賊退去スト至彼
砲発スル丁十一時三十分ニ至ル全時花園山賊六七十名見ル之シ

新援兵ノ到着スルナラシ

法花段 八時三十分頃賊忽然銃を又花園山ノ砲臺ヲ砲発シテ我ヲ攻撃ス我兵山砲ヲ放テ之ニ應ス殺テ暫日時ニテ止ム又花園山頂ニ賊兵集合スルアリ之槍兵ノ来ルナラシ我兵山砲插弾ヲ発シテ散乱セシム

藤山等 法花段ノ同時賊砲銃ニテ進撃ス直ニ完戦ニ闘凡二時間ニシテ賊退去ス

片山卯 藤山等開戦ニ續キ賊五十名ナリ激然段山ニ兵員ヲ加増シ急射ス我軍應撃スル丁凡二時間トシテ時銃戦激烈我山砲及格取柵砲ヲ放テ防支ス而シテ昨夜我砲台ノ北大約千五百米突ノ地ニ砲台ヲ築キ砲眼ニ個ヲ備ヘ又巨砲内ナリ西方ニ於テ砲台ヲ作業スルヲ見ル卒又藤山四郎銃傷ヲ請ク

野砲營 午前七時頃島等村ニ賊大約七十名行進スルヲ見野砲ヨリ榴弾ヲ発シテ粉碎セシトス彼狼狽シテ散乱ス其後赤尾口田畑ニ砲臺ヲ築造スルヲ視望砲ヲ発射ス賊直ニ應撃ス我砲ニシテ凡二時間ニシテ休戦此日卒本戸内伴九郎戦死今村能太郎銃傷ヲ被ル

埋門 午前八時三十分京町及寺原方位ヨリ賊銃火頻々リ今時赤尾口ヨリモ砲二門ヲ以テ大ニ発火ス我山砲及田砲ヲ以テ彼ヲ砲台ニ應射ス凡三時間ニシテ休戦今日午後六時山野砲ヲ以テ彼ノ砲台ヲ破壊ヤニ爲メ數回発射スルモ敢テ進マセズ今草城 午前八時頃坪井及高田原蓮正寺町ヨリ賊

龍長軒手ノ依テ坪井方位ニ向テ山砲ヨリ散弾ヲ発シテ高田原蓮正寺町ノ向テ山砲榴弾ヲ発ス又通リ町近傍倉庫ニ流シ或ハ安政橋止集合スルヲ形成ニ付山砲ヲ放テ之ヲ退散セシム

暫在テサ敷ノ内方ヨリ賊散兵ヲ以テ襲撃ス依テ山砲ヨリ霰
彈ヲ射撃スニテ防支ス須臾ニシテ賊退却ス全午後安政橋ヨ
リ砲發シ又ニ向テ山砲ヲ發ス又廣町近傍賊集合スル報アリ
野砲ヨリ榴彈ヲ發スルモ應セズ此日長沢ヲ討滅補員傷
ス

日八日 向テ桃

答テテ而古

下馬橋

野砲營

埋門

無事

城内飯田丸

午前九時ヨリ

花園山及安政橋也ニ

占地ノ賊我城内ヲ砲撃スル頻リシテ暫時苦ナリ然レモ
壁砲及七柵田砲ヲ以テ之ニ應シ彼ヲ撃テ破セシトス全十一時
ニ至漸砲發止ム午後八時過キ安政橋也ヨリ賊再砲撃ヲ
ヲ始メ我又榴彈ヲ放テ全ク砲戰ヲ止ム
縣廳 午前賊ヨリ我宇ニ向テ數發、砲ヲラス

我兵榴彈七個ヲ發シテ彼ノ動勢ヲ視ルニ彼取テ應撃ヲ
セサレヲ以テ我發火ヲ止ム

法花段 午前八時三十分頃花園山ヨリ大砲ヲ連射ス直十二
進準備ヲナシ榴彈射テ之ニ對戦ス全時サ藤崎及縣廳ヨリ
モ對射ス暫時ニシテ休戦午後四時ヨリ賊ヨリ又砲撃ヲ始メ
サ藤崎及城内ニ共ニ劇シク發放スル一時向ニシテ止戦

藤崎

午前後時々砲撃スルニ

片山即 昨夜段山ニ兵員ヲ増カスルノ形状ニ付益警言我ヲ
嚴ニシテ守備ス本日午後三時ニテ分テ而承突ル距ル四方地村ニ
於テ賊ノ集合ヲ見山砲ヨリ榴彈ヲ射撃ス全七時段山ニ
向テ十三柵田砲ヲ一發ス此日彼ノ哨兵ニ名ヲ増カス卒伊藤
松及銃割ヲ受ク

千葉城

寺原及坪井近賊屯集シ時々銃火スルニ

全九日 向手ノ物 答手ノ雀

城内飯田丸 午前八時三十分ヨリ前日、如ク花園山及安政橋ノ砲台ヨリ発砲シテ戦ヲ挑ム之ニ應スルニ山野砲及臼ヲ以テス戦丁暫時午後ニ至リ又賊午前、如ク砲発スルニ我砲台ヨリハ敢テ應撃キセス

轟轟 午前花園山及長六橋近傍ヨリ砲撃スル丁猛突ナリ我兵僅ニ福厚ヲ射テ防支ス彼ノ発火給日止マズ午後一時賊弾碎片ノ為メ卒上野ノ買杏傷ヲ負エリ

法花攻 午前十時花園山、砲台ヨリ我方面ニ向テ砲登スル丁四発全午後二本榊村北方ニ當リ賊一丁部隊顯ルヲ以テ其方方向ヲ察スルニ地物在手終キヲ見認ム能ハス
右ニ他異事ナシ

全 十日 向手ノ植松 答手ノ鶴

下馬橋野砲台 埋門休戦 異事ナシ

城内飯田丸 午前九時頃ヨリ花園山及安政橋ノ賊砲撃スル前日、如ク又細工町ニ砲一門ヲ備我線内ヲ砲撃ス我砲台ヨリ野砲ヲ射撃シ戦事凡ニ時間全四時山砲一門ヲ平九ニ分遣シ而テヨリ安政橋賊兵ヲ射撃ス

轟轟 長六橋向学校内賊徒群集スルヲ察シ續郵ニ備ルセ指砲ヲ抛擲シテ粉砕セントス

法花攻 午前十時ヨリ金山及長六橋近賊、征復ヲ見之ニ向テ僅ニ福厚ヲ発シ又磧戯場近傍賊砲台ヲ築キ我線内ヲ放撃キス

甘藤山寺 終日時々彼我砲銃ヲ発シ僅ニ戦フニシ
千葉城 坪井壺町近賊兵、出沒ヲ見ス寺宇ニ砲台ヲ築キ造スルヲ見福厚砲發彈ヲ射撃シテ彼ノ

伏葉ヲ妨害ス午後六時安政橋賊、砲台ニ向テ榴彈ヲ放
発ス

片山邸 昨夜榴銃戦又昨日ニ至リ彼狙撃スルコト前日
ノ如シ午後ニ至リテ肩墻修覆、際軍曹市原定葉言
腕及股ニ銃創ヲ被レリ

今十一日 向子 檉 各子 鴨

城内亦凡及飯田丸 午前九時安政橋、賊ヲ砲撃ス
午後三時安政橋及花園山、賊墨ヨリ我城内ヲ砲撃
ス又我城ノ南方白川堤ニ賊砲台ヲ建築シ砲二門ヲ備
飯田丸ヲ射撃ス依テ之ニ應シ戦フコト致時方当ノ卒
山口清吉戦死ス而シテ安政橋近傍賊ノ棲拠ヲ視
察シ昼間準備ヲナシ翌今夜十時本丸及子葉城飯田
丸ノ各砲ミリ連発シ賊ヲ掃蕩セントス賊陣易シ

テ應セス

下馬橋 本日午後二時十分頃長六橋及細工町方位ヨリ
我城内ニ向テ頻リニ砲撃ス之ニ於テ我隊長三橋ニ向テ榴彈ヲ放
発ス午後三時休戦

昇一廳 花園山、賊ト砲戦凡一時ニシテ止ム

法花坂 午前賊情探偵、爲メ下士卒五員ヲ高麗門近傍
ニ発セシム該地方、寺院ニ彼保墻ヲ築キ哨兵ノ間隔ハ大概
十メートル乃至十五メートルニシテ賊ハ三十名ヨリ多カラズ
又諸軍搬ニハ雇夫解、者ヲ使用ス其中婦人数多アリ予
時賊哨兵ノ到ルヲ知り俄然銃発ス我兵又僅ニ銃ヲ発
シ應シテ新時ニ退却ス其際賊哨一員ヲ殲ス正午ヨリ花園
園山、賊ト砲戦スルコト二時間ナリ
藤山寄 被我砲銃ヲ発スルコト前日、如シ佐長久保田

賢一僅に銃傷ヲ被レリ

片山卯

僅に銃戦ノ三和休戦タリ全日般山口賊ヨリ

矢ノ羽ニ書校ミテ送レリ其文田

今般政府妄ニ晴殺ヲ謀リ自ラ国憲ヲ犯スノ罪有之尋テ岡
島西郷陸軍大將外ニ各師ヲ師ヒ此ニ至リ然ルニ當ニ縣鎮台
名義ヲ余ヤス城ヲ閉チ送ヘ拒キ人民ヲ妨害ス其罪甚シ我
家墳墓ニ將ニ日割ニ城中塵ニセトス然ルニ賈徒ノ輩
其情ヲ憫ム可キナリ諸兵前非ヲ悔ヒ兵益ヲ捨テ未服スル
者ハ必シモ其罪ヲ問ハス且山本高瀬諸道ノ東軍我皆
之シテ撃テ破ス各縣義兵ノ起ル蜂卓ヲ破カ如シ然ルニ公
寺猶孤城ヲ守リ糧竭キ援絶ヘ長一瞬息ニアリ公ホ
回シテ其レ今ニ及テ向テ北川ヲ交セヨ

十年三月

鹿兒島陳中

熊本隊

野砲營

午后三時頃赤尾口田畑砲臺ヨリ砲撃スルニ
ヨリ塹砲ヲ以テ應撃ス又ニ於テ彼ノ砲台右翼ノ砲眼ヲ大
ニ破壊シ彼ノ発火ヲ止ム

埋門

午前十時三十分ヨリ十一時五十分迄砲戦スルノ三

子葉城

安政橋ノ賊午後三時ヨリ砲ニ門ヲ以テ我守地
ヲ頻リニ砲撃テ我レ之ニ應スル十発全葉五時ニ至リテ止ム
又寺原ニ當テ賊十五名砲台ヲ破壊スルヲ見直ニ榴彈ヲ射撃
シテ賊兵ヲ掃除ス

全十二日 問号

楠

答号 熊

本日午後般山根松ノ賊徒掃蕩ノ爲メ進撃ヲナシ各兵勇
戦激陣彼防拒最モカム爲メニ彼我ノ死傷頗リ多ク又
景ニ至リテ砲戦殊ニ甚シ終日連戦止マズ

城内飯田丸 午後段山時頃長橋の橋の地、賊ヲ砲撃ス全
五時前ヨリ段山方位銃声猛烈全時ヨリ花園山及各所布
陣、賊兵我線内ニ向テ大ニ砲撃ス依テ之ニ應ジ戦ジ数時
間ナリ

下馬橋 午後七時頃賊兵出寄練場、先例ヨリ竹ノ丸砲
台ニ向テ擲リニ砲撃ス依テ我軍ヨリ榴弾ヲ放テ賊兵ヲ擡
乱セシム同時発火ヲ止メタリ

縣廳 午後六時ヨリ花園山人賊ト砲戦全ハ時ニ至テ休戦
法花及 段山進撃キ、賊砲ヲ十セトモ我敢テ應セス

世藤 山崎 段山進撃キニ付直ニ開戦三時后ヨリ
賊砲撃キ我軍ニ甚シ夜半ニ至ルモ戦斷止ニス賊ノ死
傷最モ多シト想像ス幸秋田内賊太久保勝三郎ノ
銃割ヲ受ル

片山即午後段山賊軍ニ向テ進撃ニ付山砲榴弾ヲ射撃シテ彼ヲ破碎
セシム而シテ四方地村及花園山賊軍ヨリ猛烈砲撃ス爲メニサ射出る敵
兵幸仲間勦絶、砲彈碎片ヲ以テ負傷全卒ヲ野ニ次郎同様、故ヲ以
戦死ス

埋門 午後五時頃ヨリ赤尾口砲台ヨリ放テスルニ依テ之野砲ヲ以テ之ニ應ジ戦
ヲ一時向余トス

全十三日 同(三) 答(一)

千葉城 寺原村農家賊ノ必集スルヲ見故ニ榴弾ヲ射撃ス之ヲ后安政橋ヨリ砲
撃ス自他異事ナシ 野砲宮休戦異ナリナシ

段山テリ一屋賊潜伏シアルヲ以テ昨二日午後五時ニ付、頃七ノ塊ヲ填マシ榴弾ヲ
放テ焚燒スル賊三名退走スルニ付我軍直ニ進撃シ徹夜奮戦スルモ賊ノ退却ヲ
不能トス大砲互ニ放ツテ而降、如シ以テ今日曉天ヨリ種々攻畧ヲ尽ス凡苦戦遂ニ
午後五時、以我軍回兵、銃ヲ得賊名ヲ方向ヲ異ニシ散走ス依テ進撃キ我兵

其方向ニアル各砲台ヨリ各種ノ彈ヲ放テ全ク段山ヲ我線内ニ占メ直ニ胸壁ヲ築キ片山山印ニアル山砲ニ門ヲ移シ歩兵ト共此地ヲ守備ス此日兵若ク彈藥得糧食等ヲ收城スル丁ヨリヨリ既ニ攻囲セラル丁三週余此時ニ當リ我軍城ノ兵如斯ク勝利ヲ得實ニ欣喜ニ不堪尙一層奮勇ノ色ヲ顯ハセリ

城内 飯田丸 午前八時頃ヨリ花園山及安政橋白川堤ニ占地ノ賊ヨリ我線内ヲ頻リニ砲撃キス之ニ應ジ戦丁終リナリ

轟轟 昨十二日午後段山追撃キニ自本日五時頃戦午後二時ニ至リ賊大ニ敗走彼守地ヲ奪テ山鳥寄村花園山ニ向テ退リ依テ談カカ位逃去シ賊山野及

白砲ヲ類リニ放テ進撃シ第三時五十分ニ至リテ止ム

法花坂 本日午前後花園山ノ賊ト砲戦ス此日北岡村賊之火薬庫ニ火ヲシテ破裂ス

片山印 昨十二日午後段山ニ向テ火塊ヲ填セシ榴彈ヲ放テ一家焚燒スルヤ我軍進撃シ徹夜奮戦以テ本日午後第二時賊遂ニ退走ス茲ニ於テ段山ニ胸壁ヲ築キ山砲二門ヲ移シ歩兵ヲ配置シテ此地ヲ占ム事日也長直彦三被傷

野砲營 昨日午後段山進撃ノ際野砲ヲ以テ應援シ赤尾及田畑砲台ヨリ賊ヲ攻撃セシニ依リ我軍進撃スルノ數時本日午前九時頃段山近傍川中ヨリ賊數各狙撃スルニ依リ山砲野砲數發ヲ放テ掃蕩ス午後二時頃段山賊大ニ敗走守ヲ捨テ逃走ス依テ野砲ヨリ榴彈數ヲ射テ追撃殺名ヲ斃ス

埋門 休戰異事ナシ

十葉城 午後安政橋、賊一砲撃スル、九二時同其右并丹壺町ノ方位
当テ賊砲台ヲ塞クヲ見ル故ニ砲撃スル、十時余ナリ

藤崎 昨一二日午後ヨリ飯山進撃ニ付續テ敵國本日午後三時ニ至リ賊
役跡易クニ賊之、高寄村及花園山ニ入ルヲ依テ各砲ヨリ榴弾及榴霰弾
ヲ急ニ放テ追撃致各ヲ撃ス

今十四日 同号 桐 各号 雑子

各隊ニテ微取物ノ内藥品之流物及粉質ノ物葡萄酒或ハ酒石酸杯
ト思ヒアニモニヤ或ハ干ヒ子ヲ食吞シ不慮ノ禍ヲ醸セシ有アリ是等ヲ禁

止シ一旦医官之検査請ヘキ旨ヲ達ラシ

城内本丸及飯田丸 午後一時本丸ヨリ寺屋大工町ニ在ル賊ノ炊事場
ヲ射撃ス全ク二時ヨリ賊城内ニ向テ類ノニ砲撃ス依テ飯田丸ト共ニ之ニ

應シ三時ニ到テ休戦

縣廳 花園山賊 墨ヨリ砲撃スル、敵回我隊山砲及僧部ノ

臼砲ニ登テ應射シテ止ム又午後七時三十分ヨリ長土橋近傍ノ賊砲撃スル、
四五回ナリ

飯山 午後日向寄村及花園山ノ賊墨ヨリ砲撃スル至ト凡日向寄村ハ

我砲ノ方向ナラス又花園山砲台ニ入山砲達シ難キヲ以テ應撃スル不
能ス

埋門 午後一時三十分頃賊和豆村近傍ヨリ砲台ヨリ砲放ス依テ之ニ

應シ敵一ノ須更ニシテ休戦

十葉城 午後三時ヨリ安政橋ノ賊砲放シ直ニ之ニ應シ砲撃スル、九三

時ニ同ニシテ止ム

昨十二日飯山ノ賊徒攻撃ニ付テハ司令長官谷女将ヨリ實書達ラレ
其旨左ノ如シ

一昨日乘賊ノ險要ニ拠ルモノヲ攻撃シ昨日午後ニ至リ頗ル苦戦ノ趣ニ付
親哨外ニ臨ミ見用候外十四聯隊近回兵ノ勵進ナシ聯隊及巡

查連敵不居遂ニ砲臺ヲ被取矣我將校指揮ノ至ルト下五兵卒奮發競
進トノ所致且砲兵隊發射精妙工兵隊胸壁交通路築造ノ功等
深ク感服ノ一ニ矣尚其筋上申ノ上何分ノ御沙汰可有之是得共
不取敢此旨一同上可申聞是也

明治十一年三月十四日

陸軍少將谷下城

全一五日 同号控

香号 龜

昨夜未種不驛ノ方位ニ當リ銃声頗盛ナリ本日到リ砲声ヲ支上我
應援ノ兵進撃ヲシテ迎接スルヲ以テ激戦ナラン

城内本丸及飯田丸

春日村ニ賊ノ本陣アルヲ察シ午最九時飯

田丸ヨリ野砲榴弾ヲ射撃ス全一時山砲及臼砲ヲ以テ白川堤ノ賊
塁ヲ射撃ス又本丸ヨリハ山砲ヲ以テ寺直久町ニ在ル賊ノ炊事場及
安政橋邊ヲ攻撃ス午最二時白川堤ノ賊砲戦二時四十分間トス
下馬橋 休戦異条ナシ

縣廳

午最八時ヨリ花岡山及長六橋面ノ賊ノ屯集スルニ向テ砲撃

スルノ數回午後一時撃卒高橋田太郎在立町ニ於テ食品徵求之際
突然賊ノ侵襲ヲ請ケ刀創ノ為ノ即死ス

法花坂

午最賊兵花岡山ノ上數名相顯ル午後二至リテ全丸及是服

町方位ヨリ砲撃ス

藤崎

午最右兵賊間敵ナク砲撃ス我軍ニテ三時々應撃ス

其他黑事ナシ

飯山

午最八時頃賊一小隊計リ花岡山ヲ下リ我砲台ヲ

距ル一二百米突リ石山ニ登リ十数山ニ向テ進ム者ニ次之ニ向

テ榴弾ヲ發ス

野砲營

立立町近傍賊情ヲ探ラニ為ノ山砲野砲ヲ數回

放ツモ彼應セス

埋門

午最八時三十分立立町學校賊根拠上向テ砲撃ス

午葉城 午最八時ヨリ全一時迄立町方位工敷個々放之午後三時ヨリ一時間安政橋、賊ト砲撃之仕長津田直次良宮内ニ於テ負傷

全十一日

同号ノ橋

各号ノ懸

城内ヲ九飯田丸 午最八時本丸ヨリ白川堤東北方布陣、賊ト砲撃

午後二時迄本丸ヨリ寺直大町ニ台地ニ賊及ヒ炊事場ヲ射撃ス又飯

田丸ヨリモ白川堤東北及細二町ニ布陣ス賊ト戦フ全時過本莊村ノ方ニ

常テ賊ノ屯ルニ失火アリ家屋ノ燒煙騰リ彼周章ノ狼狽ニ嗚叫ノ声甚

シ故ニ其近傍ニ向テ榴彈ヲ放祭ス

縣廳 午後七時三十分長二橋向賊ノ堡壘近傍山火此舉ニ乘リ

テ我隊ヨリ放祭ス丁敷田賊狼狽嗚叫ノミアリ暫クシテ放祭ヲ止ム

藤寄 終日彼我時々相射撃ス

飯山 午後二時、垣口砲台ノ西北二十米突及至二十二有米突

ノ距離ニ於テ十五名或ハ二十名ノ賊兵隱頭禮ヲ運搬スルヲ見之ニ

向テ砲撃シ散乱セシム

野砲營 午後二時栢直村近傍ノ賊壘ヨリ砲撃ス丁敷田我隊ヨリ

山麓砲ヲ祭シテ之ニ應ス午後嵩崎村ノ賊九小队計リ行進スルヲ

見野砲ヨリ榴彈ヲ祭シテ掃蕩ス

全十一日

同号ノ菊

各号ノ狐

下馬橋縣廳藤寄理門休戦無異事

城内飯田丸 午最九時下通町及白川堤布陣ノ賊ト砲撃ス

法花坂 終日細工町方位賊數十名東走西走スルヲ見ル

飯山 昨夜一時十五分賊花田ノ方位ヨリ匍匐シテ来ル馬小銃

ヲ放ツト金丸賊群ラサル是況ヲ以砲射ス

整砲營 午後一時迄栢直村近傍ノ砲壘ヨリ放撃セシニ依リ

我軍之ニ應スルニ四五祭ヲシテ止ム

十葉城 安政橋ノ賊兵時々射撃ス

全十八日 同号 季 各号 礮

昨夜来種不取ノ方位砲銃ノ声響拾モ百雷ニ似タリ敵國激烈ヲ想係ス

城内下馬橋縣廳藤寄整砲管理門花坂休戦異事ナシ

段山 昨夜秋砲台ノ北及西方ノ雨久賊整堡ヲ建築ス依テ

本日午前九時實彈及榴彈ヲ発スレモ未破壊ニ至ラズ此實彈ハ賊ヨリ

発スレテ彈ノ破裂セリモノヲ我軍抗テ再発射セリ

今葉城 安政橋及山寄ノ砲台ト須リ砲戦ス

全十九日 同号 梅 礮 各号 蟬

城内飯田丸 午后四時二十分ヨリ續即ニ備ル白砲ト共ニ花置及長

二橋向ニ発砲スル一敵回全五時ニシテ休ム

全二十日 同号 橋 各号 太刀 魚

縣廳 北置村ニ向テ発射スル一四面内一回ハ彈葉頗ル良ニシテ

賊避易ノ故收テリ

右之外各方面休戦異事ナシ

全二十一日 同号 笠 各号 鷲

段山 昨夜十一時ノ頃賊二十名計リ発射シ来ル直ニ我砲台ヨリ

應撃ス

縣廳 賊兵ヨリ砲発スル一大概十発トス石之外各方面休戦異

情

全二十二日 同号 推 各号 鹿

城内飯田丸 午前九時ヨリ全十一時四十分迄白川堤ニ布陣ノ賊ト

砲戦ス而昨夜来種不取ニ當テ銃声頗盛ナリ此日雇夫園

田新八管内ニ於テ負傷

縣廳 徳園社及長二橋ニ向テ発射スル一各三発トス

花坂 賊兵細工町近傍ヨリ砲撃ス暫時ニシテ止ム

敵山 賊ヨリ終セシムノ発弾ヲ拾ヒ午後第二時及五時日向寄
打ノ賊墨ニ向テ砲撃ス右之外各方面休戦墨条ナシ

全廿三日 向号ノ發 番号ノ破巢

城内飯田丸 午前九時十五分ヨリ下通町白川堤ニ占地ノ賊
ト砲撃全十一時三十分ニ至リテ休戦

藤寄 午前九時頃ヨリ賊凡三十名余進ニ来リ依テ

真二同戦全三時過退却ス

敵山 本日午前四時三十分程承徴求ノ為メ歩兵一中隊日

向寄村ニ至テ進撃ス依テ我隊発射ノ準備ヲナス時々我兵ノ進

撃ヲ賊覺リテ発射ス為ニ同戦該地方向テ砲撃ス又歩兵ノ退

路ヲ掩護セシ為メ日向崎村ノ賊堡及四方地ノ堡不效寺ニ向テ

榴弾榴霰弾ヲ發ス

埋門 午後二時立町地方ヨリ賊火撃ス之ニ應スルニ臼砲及山砲

ヲ以テス七時ニ至リ休戦ス

千葉城 本日進撃中糧運撤ノ時衛兵賊ヲ攻撃スルノ際榴弾

發合ヲ放テ應援ス右之外各方面墨条ナシ

全廿四日 向号ノ發 番号ノ單蟬

縣廳 午後賊軍ヨリ砲發スルノ發回我隊之ニ應スルニ發

ニシテ止ム石之外各方面墨条ナシ

全廿五日 向号ノ發 番号ノ鰯

城内飯田丸 午後三時ヨリ四時迄花笠山ノ賊ト砲撃此日賊

賊砲發減セリ

縣廳 花園山及長六橋面発砲スルノ回ニシテ止ム石之

外各方面墨条ナシ

全廿六日 門号ノ發 番号ノ

拂曉ヨリ川尻ノ方位ニ當テ砲銃声ヲ聞キ酣戦ノ景況ナリ按スルニ

官軍賊要路ヲ截斷シ糧道ヲ台取スルノ謀ナラン
城内不丸及飯田丸 午前十時ノ頃賊安政橋邊ニ於テ中役
スルヲ射撃ス

擊麿

本日砲撃スルノ五時間トス

法花坂

午後花屋山ノ砲台ヨリ隊ニ向テ大祭ス

右之外各方面異祭アリ

全七日門号

番号

不丸及飯田丸宜町邊進撃ニ甘應接ノ為メ安政橋邊ニ山

岑近傍ニ台地ノ賊兵ヲ射撃ス

下馬橋 午前五時三十分頃宜町方位進撃中坂ノ上ノ

賊ノ砲台ニ對敵シ午後一時頃步兵及巡查ノ衝破スルニ後ト終ニ

中坂上ノ砲台ヲ拔キ宜町本町ヲ進撃シ午後七時三十分頃歸城

ス

縣廳 午前第四時軍宜町ニ進撃ノ際各所集ル賊地ニ應

接ニ至ルヲ妨ケニガ為メ砲臺スルノ數十四ニシテ全第七時三十分至

リ発射ヲ止ム

法花坂 本日午前第四時五十分頃花屋山ヲ射ス引續キ細工町

春日高麗門ヲ射ス賊之ニ應ニテ終日ニシテ止ム

藤崎

林敵ニ警鬻タリ

飯山 本日午前第五時步兵牧寄ニ向テ進撃ス因リテ砲

台ヨリニ接撃ス彌賊接隊或ハ接撃ヲ防支スル為メ砲台ノ西南一

千メートル乃至一千五百メートルヲ距ル向四方地及四方地村又西方ニシテ日

向寄或ハ一千二百メートルヲ巨ル爲寄或ハ九百メートルヲ距ル牧

寄ノ南端或ハ一砲車前面上百メートルヲ巨ル民家等賊堡ニ向

掃彈ヲ放射シ又一砲車ノ佳地ヲシテ時々東方ニ變シ砲台ノ東

北九百五メートルトルヲ爲ル牧寄ノ賊堡及ヒ該近傍ノ家屋ニ向

工テ全捕彈ヲ發射シ賊火ヲ遏絶シテ救兵ノ進路ヲ閉キ或是退
路ノ時ヲ防支ス此日捕彈垣列ノ爲メニ家屋ヲ焚燒スルニシケル就
中一ヶ外ハ西屋ニ蔓延シ一ツハ西シ戸ニ蔓延シテ又ニ展將ヲ得タリ
而シテ午後三時ノ比ニ救兵火ヲ救寄ニ放テ該所ヲ擊テ飯ハ多ニ
敵陣ヲ罷ム夜ニ暨トテ一時ノ頃ニ救寄ノ南端ニ向エ又捕彈ニ發ラ放ッ
野砲營 午前四時立町及ト本妙寺ニ進撃ノ際應援ノ爲
赤尾口田畑砲台及宇土小路裏胸壁ニ向ト山野ヲ以テ放撃ス
備陸軍々曹山手廻賀埋門分遣砲兵ニ屬シ進撃山砲一门及附
屬ノ人直則位長一名兵卒三名埋門分遣ス也兵卒二名十二捕砲
爲シ京町ニ進撃ス
埋門 午前五時三十分ヨリ立街方位進撃今京町砲台ニ對敵就
中境強ヲ放テ土蔵ヲ燒キ午後三時四十分表兵衝突ノ道ヲ閉キ賊ノ砲
台ヲ發キ四時三十分帰營傷者四名内一名ハ軍曹山名有友外三名

卒道藤虎次友納庄藏太田リ三郎ナリ

千葉城 午前第二時頃ヨリ第十一時頃迄立町中阪安政橋
及下通町賊砲ヲ應撃ス坪丹近傍賊ノ應援ヲ遮ル爲メ午後第五
時頃迄漸ク砲發ス

全 八日 同号 春号

整砲營 午後本妙寺ニ向テ野砲ヲ射撃ス又本尉試補河
井令信山砲一口兵卒若テラ卒ト京町ニシテ張ニ坪丹建町ヲ砲撃

飯山 本日午前花室山ノ賊墨ヨリ救砲台ニ向ト捕彈ヲ類リ射
撃ス依テ花砲車ヲ捕東方ニ轉シ急造堡ヲ起シテ捕砲敵ス午後
二時救砲台ノ南方一ノ二百ノトルヲ距ル花室ノ賊堡ニ向ト捕彈九個
ヲ發シ全五時三十分ノ頃四方地村ニ日向寄村牧寄村等ノ賊堡ニ向ト
十二個ノ捕彈ヲ發ス石之外各方面杯敵墨奈テシ

全廿九日 問号

番号

城内手丸及飯田丸 午後第四時賊兵本莊村近傍ヲ通過スルヲ射撃ス

下馬橋 午後第一時臼砲一門京町方位ニ分遣シ賊ノ屯集セル家

屋ヲ射撃ス全五時引揚タリ

法花坂 午前花笠山ヨリ賊僅ニ砲撃シ午後ニ至リ細工町ヨリモ砲撃ス

段山 昨夜九時三十分日向寺村賊堡ニ向ヒ分隊ノ放火ヲ

テス三回ヲ四回共砲ヲ發ス賊狼狽シテ石切山ニ走ルノ狀情ニ付掃

彈ヲ石山ノ平服孤家ニ放テハ賊益退却ノ狀ナリ而シテ本日午後

四時我砲台ノ西北一ノ二百メートルヲ距ル林中ニ賊數十名在リテ

見之ニ向テ榴彈ヲ射撃ス

埋門 午後二時京町ニ分遣シ寺百及寺宣町賊ノ根柢ヲ砲撃

シテ彼動靜ヲ探ルモ敢テ應セス全五時引揚タリ

十葉城 安政橋及山崎ヨリ賊僅ニ砲撃ス我隊直ニ之ニ應シ賊一ノ九一

時間余アリ石之外各方面異テシ

全三十一日 問号

番号

飯山 昨日午後三時花笠ノ賊堡ヨリ砲撃シ我隊應ニ敵一ノ須更

又全時日向寺村ノ賊堡及近傍屋ニ向テ榴彈數回ヲ發ス

埋門 午前第一時ヨリ京町ニ分遣シ張賊ノ胸壁ニ砲撃スルニ更ニ應スルニ

十葉城 坪井方位賊ノ根柢ニ向テ僅ニ砲撃ス石之外各方面休戰ニ

事ナシ

全三十一日 問号

番号

法花坂 午前七時花笠山ノ賊堡及細工町ヨリ僅ニ砲撃ス午後ニ至テ

再々花笠山ヨリ射撃ス而シテ本日八代方位ニ至リテ境畑ノ大ニ騰ルヲ見タリ

飯山 日向寺村及四方地村ノ賊堡ヨリ我砲台ヲ類リニ狙撃ス又

又花笠山ノ賊堡ヨリモ砲撃スヲ以テ何レノ塁ニ向テモ榴弾ニ射撃應
敵ス

野砲營 午後一時山砲一門附屬ノ人直立町ニ分遣シ芝草町及坪丹
連町ニ向テ砲撃スルモ彼レ更ニ應セス直々ニ旧守ニ復ス

埋門 午後二時過白砲一門京町北方五分沁シ該地方賊ノ胸壁ニ抛
擲セシ賊更ニ應スル景況ナシ依テ旧守ニ引揚リ石之外各方面休
戰異状ナシ

四月一日同号

各号

花坂 昨日午後二時ヨリ花笠山ノ賊暫時砲撃シ本日午前十
分ヨリ一時同計リ砲撃スルモ應セス石之外各方面異状ナシ

全二日同号

各号

埋門 白砲二門山砲一門ヲ立町地方ニ分遣シ賊堡及此所ヲ
砲撃スルモ取テ應セス石之外異状ナシ各方面休戰

全三日同号

各号

縣廳 花笠山賊堡ヨリ砲撃スルモ教一隊依テ僅ニ之ニ應ス

花坂 午前十時花笠山及細工町ヨリ砲撃ス

故山 午後第四時本妙寺前ノ賊堡ニ於テ賊殺リテ堡上ニ躍
ルヲ見ハ榴弾ヲ射撃ス

子葉城 午前十時頃連町ニ向テ砲撃ス石ノ外各方面休戰異状
ナシ當日卒十野留市營内ニ於テ創傷ヲ請ク

全四日同号

各号

縣廳 賊堡ヨリ午前十時砲撃スルモ教一隊我軍之ニ應スル山砲及白
砲ヲ以テ

花坂 花笠山及大概一時間砲撃ス

藤崎 午前十時花笠山ヨリ砲撃ス佐長保田賢一殿中ニ砲彈炸裂シ
即死ス

敵山 午前八時三十分ノ頃ニ賊數十名本妙寺近傍蘆藪ヲ運
リ因テ之ニ榴弾ヲ放テハ山林中ニ入ルヲ見ル石之外方面休戦
是

全日 五日 同号 櫻 音号 鱒

明日朝飯ヨリ食糧左ノ通トノ向連アリ

各官麻 朝夕粥 益粟飯
各隊 朝粥 益夕粟飯
人夫 三食共 粟飯

敵山 午前九時三十分四方地村賊屋内ニ多ク集合セラル見認メ
之ニ榴弾ニ放テハ直ニ佛閣ノ右方竅中ニ入ル者多シ依テ之ニ又榴弾ニ
放テ射撃ス石ノ外各方面休戦是事ナシ
法花坂 旧一日亭ニ砲台ヲ建築ス賊兵杖作業ヲ妨メ為メ類ニ
砲撃ス午前九時頃彼兵高麗ノ第一ノ胸壁ヲ築ク故ニ之ヲ探ニタメ

出セシ卒尾割徳大郎銃傷ヲ請ケル
埋門 山砲一門ヲ京町ニ分遣シ出京町及丹井辺ヲ砲撃シ夕景ニ至リ
旧寺ニ復ス

石之分方面 音号 海嵐
全 七日 同号 音号 海嵐

午前第四時頃ヨリ川尻辺ニ於テ銃声ヲ厚全八時ニ至テ其声響盛ニシテ
最近接セリ

城内飯田丸 午前第四時頃ヨリ銃声南方ニ甚シ依テ全七時ヨリ
意後ノ為メ飯田丸ヨリ発射スルノ若干発

千葉城 午右第四時頃立田山近傍賊二百名津ノ浦ニ向テ行
進スヲ見大概二十三百名突ノ距離ニ於テ並砲榴弾ヲ射撃ス

石之分方面 音号 幸螺
全 八日 同号 音号 幸螺

本日午前第四時三十分歩兵一大隊川尻方位突圍アリ故ニ進撃
兵若干ヲ以テ立町口坪丹安己橋及高田直ヲ攻撃シ又其方面ニ備アル
砲ハ賊軍ヲ破撃シ暫時ニシテ安己橋口賊塁ヲ破リ追撃九品村外周
攻撃兵配布敵陣中全村入口ニ糧米貯蔵アルヲ察シ直ニ攻城ノ手敢
ヲナシ軍夫及役僕ノ如キ委皆賦進スルモ其數多ナルヲ以テ砲隊軍馬
凡ニ七拾頭ヲ以テ午後第一時頃進ニ參皆相運其數大畧七百五拾
俵ヲ得タリ又攻撃兵一大隊突圍ノ目的ヲ達シ殊ニ算外ノ徵求物品
以テ漸々引揚全第ニ時子比全ノ守線ニ至ル過日米粟飯等喫スル故ニ
最早糧食ノ乏シキハ各々臆察内患スルモ平日多敷ノ徵求物アルヲ喜
祝蘇生ノ思ヲナシ一層精勵嚴戒セリ卒安劫作全縮華甚作徒刑人
山徹銃傷ヲ受リ
手及飯田丸 歩兵川尻辺へ進入ニ付安政橋辺ニ立地ノ賊ヲ進
撃ニ依テ午前第五時過ヨリ白川堤賊ノ砲台及長録橋近傍

下河直辺ニ立地ノ賊ヲ射撃ニ就ク午後第一時過敵
ヲ收ム
下馬橋 午前第四時三十分頃川尻口進撃ニ付
下通町ノ堤坊及山崎ニアル賊ノ砲台ニ射撃シ以テ進
撃ノ應接ス
縣廳 午前高田直及安政橋進撃ノ際全五時三十分
ヨリ長録橋下河直及花置山ニ向テ砲撃スル丁午後第三
時ニ至ル費ス彈數三〇ニテ九十発ナリ
花坂 本日午前坪丹進撃ニ付賊ノ接兵ヲ壓セシ
ヲ為シ花置細工町春日ヲ撃ツ午後三時四十分ニテ
止ム
藤寄 午前第五時三十分ヨリ長二橋及下河直
細工町辺へ砲撃ス依テ賊花置山及本山砲台ヨリ砲

祭午右第四時前ヨリ休戦

飯山 本日午前五時ノ頃ニ当立町及花屋山ノ

賊堡ヨリ飯山ニ向テ類リニ榴弾ヲ放ツ然レモ青テ彼レニ

及当立町方位ニ廻ルアリ 因リテ之レニ榴弾ニ発ラ

放ツ午右三時ニ至リ四方地村日向寄牧寄不效寺

ノ賊稍増息セリ

基砲營 午前三時ヨリ步兵第一大隊突圍ニ付立

町ノ山砲一門附属人直共張ニ坪丹及当立町ノ放撃

理門 步兵第一大隊突撃ニ際シ午前三時ヨリ山砲一門附

属人直共立町方位ニ当張寺魚及レ当立町ヲ砲

射シ午右四時帰營ス

ノ葉城 午前第四時子頃ヨリ第一時頃迄建町白川町

是ニ互畑各近傍テ発射ス第一時頃ヨリ午右四時頃迄奏

謀部ノ指揮ヲ以テ安政橋辺ヨリ兵不運搬全第五時

頃建町空本寺ニ向テ放祭但シ空本寺ハ賊徒ノ炊事

場アリ 傷者卒安部典作

各方面休戦 全九日問号 藁 各号 鱈 全一日問号 海象 各号 鱈

本日午前ヨリ高橋方位ニ於テ遠ニ砲声アリ之レ海軍
賊ヲ攻撃スルアラシ
左ノ通り達セラレ
別紙指廻シ矣 全日全部下一同ノ可相達矣 莫
十年四月十日 谷陸軍中將

臺台守城既ニ五旬全ヲ徑ハト金氏人氣不挽守備倍嚴ニシテ
最初ノ敵圍以來曾テ賊ノ侵襲ヲ受ケス救救回ノ攻撃ヲ
奮戰捷ヲ奏ス殊ニ一昨八日突圍進撃ノ如キハ十分ノ~~成~~
成策策外ノ勝利ヲ獲ルト謂フヘシ是偏ニ各隊各部同心戮
力救
天皇陛下ノ為メ艱苦ヲ厭ハス各其職務ヲ勉勵スルノ致スル
屢勝利ヲ得賊勢ヲ挫折シ不日其成功ヲ奏スヘキハ必然ニテ
深ク感奮ノ至ニ矣追而思筋ノ上甲可及矣幸此旨篤ト可申
厚相達矣莫

明治十年四月十日 陸軍少将谷下城
永々守城中各隊各部一全勉強奉職矣ニ付為慰勞
別紙ノ通リ酒肴科下賜矣幸右金魚共台會
計部ニ於テ可請取此旨達矣莫

明治十年四月十日 陸軍少将谷下城

別紙目錄

- 金壹円 奏任
- 金壹円 刊任
- 金八十文 諸字

今般征討ノ海陸軍既ニ東西ニ齎集シ賊徒糧道ヲ断
切セラレシ上ハ敗散遠牛ニ非ラズ此彼窮蹙ノ勢トアリ突
然死戦ヲ決スル義ニ難斗自今最警警戒嚴肅ヲ要スル時ニ矣
幸各自今一層勵精奉務矣孫篤ト可申厚此旨及諭達
矣也

明治十年四月十日 陸軍少将谷下城

午后第一時塙植不方位及小菰山向辺ニ銃声ヲ聞遂時
激烈トアリ埋門ニ至リ銃声アル方ヲ察スルニ近日來接近第

一ノ知書声ナリ

各方面休戦異事ナシ

全一一日同号

各号

城内飯田丸

賊ノ本陣二本ノ樹村ニ轉シタルノ趣ニ依リ全丸ニ

向ケ午最第十一時五十分整砲ヲ射撃ス午右零時四十分我砲

台ノ傍ニ於テ幸和不久次郎賊白川堤ヨリ我砲ヲ碎片ヲ

以テ直傷ス

縣廳 午前右賊軍ヨリ我放スルノ我砲

法花坂 午前花笠山ノ賊僅ニ砲撃ス

石之方方面休戦異事ナシ

全一二日同号

各号

段山 昨夜賊端舟十隻ヲ舩ニ我守ノ近傍ニ襲迫

スルノ警報アリ因テ哨兵ヲ倍嚴シ兵卒ヲ不眠セシメ本日

黎明ヨリ砲ヲ五名ヲ砲則ニ配布シ以テ賊ノ襲ヲ

待ツ然レモ肯テ賊船ノ取ヲ見ス午後第四時三十分

分ノ頃トテ我寺前石層下ヨリ彈莖箱ト見シ者ヲ

類リニ運搬ス之ニ向テ榴彈ヲ射撃ス

城内本丸及飯田丸 午前第九時過飯田丸ヨリ二

本街方位ヲ砲撃シ又又水泉地街道賊ノ十奇駁

通過スルヲ砲撃ス

石之方方面休戦異事ナシ

全一三日同号

各号

城内本丸及飯田丸 昨日ニ異ルナシ

段山 午前五時ノ頃四方地村及花笠山ノ賊

堡及本姓寺石層ノ傍ニ牧野村等ニ賊教十名ヲ

見認メ之ニ向テ榴彈ヲ発シ午後三時ノ頃ニ至リ

名山砲台ヨリ見ニ四方地村ノ人家ニ賊教人名入
 ルアリ又搦陣ヲ放テ之ヲ攻ム午��四時頃ヨリ本妙
 寺及四方地村ノ賊堡ニ人直大ニ増加シ大概二百
 名ト云後日向寺村ノ賊堡ニモ亦々人直ヲ移セリ
 然レテ日向寺村ニ賊長タル密頼ノ者兩名来リテ
 賊守ヲ窺ノ是況ニ村之ニ向テモ搦陣ヲ射撃ス
 石之分各面休戦異事ナシ
 本日ニ至リ城ノ周圍ニ配布スルノ砲教左
 如シ

整砲

六門

山砲

拾五門

旧砲

八門

全十四日

城内飯田丸 午前十時過二本不村及水泉
寺街道ヲ賊周章東西ニ奔走ス其是夜實ニ怪
ムモノアリ何トナレハ應援ニシテハ其隊伍
不整散乱狼狽ノ色アリ 依テ砲撃數彈

下馬橋今橋ヨリ川尻ノ銃声頻リ漸々近ツクニ隨
テ賊高橋街道ヲ指シ潰走ス依テ砲撃彈
然ル片做然トシテ銃砲声止ミ夜ニ

暫ク耳歌スルニ午后才四時過ニ遙々ト打止ノ喇叭声ヲ耳ク其譜
佛也未夕賊佛譜ノ喇叭ヲ奏スルヲ不聞然ルニ今是ヲ聞クハ
全ク川尻口ノ旅團カ又ハ賊ノ策カ已ニ長六橋辺ニシテ隊伍
蕭然トシ手旗ヲ揮ヘ赤ル先鋒ヲ已ニ山崎ニ見ル定製ノ服
ヲ装シ白黒ノ手旗ヲ揮ヘ是全ク官兵也然ハ川尻口ノ破レシ
モノナラント於茲ニ互ニ喜躍一声聞テ奈ス下馬橋ニ垂ントシテ
先鋒將校山川中佐福富少尉呼テ曰今川尻口ヲ破テ連絡
ノ附レナリト因テ橋板ヲ置キ旅團ノ軍ヲ待ツ其後
續テ教導團生徒一中隊赤ル縣廳内今晚ヨリ川尻口方
向ノ銃声頻リ午前十時三十分比ヨリ漸々近ツク
ニ賊花岳山ヨリ砲一門ヲ下シ何レノ地ニ持行シヤ又
長六橋前後ヲ賊甚周章東西走ス因テ砲撃數面
午前十時五十分比ニ至リ奔走スル賊甚々減少ス

終ニ其形跡ヲ不知然ルニ長六橋白ニ銃劔ノ閃ヲ展
望ス己ニ橋ヲ渡ルニ垂ントシテ陸軍定製ノ服ヲ装シ
手旗ヲ揮ヘ是全ク川尻口ノ官兵ナラント山寄ニシテ自ラ
閨ヲ突シ勇躍不能止

法花坂午前六時三十分春日村ノ後方ニ當テ戰声頻リ同時頃ヨリ
花岳及細工町ヨリ砲撃ス午後二時比ヨリ俄然トノ砲銃声止又南方
ニ當テ火煙熾也午後五時ヨリ高麗門近傍ニ火アリ午前ヨリ午後迄
ルマテ對スル急ナリ因テ花岳及春日ヲ砲撃ス

段山昨夜不寢以テ警戒ヲ加フル前夜ノ如シ本日午後本妙寺及四方
地村ノ賊彈藥箱ト認メシモノヲ出京町方位ニ送り而テ同團田畑ノ藪大ニ
セリ本日休戦

千葉城午後才四時比ヨリ安政橋明五橋及坪井堤町近傍へ賊敗走
因テ砲撃數十回其他方面休戦異事ナシ

今十五日

城内飯田丸出京町辺ニ台地ノ賊軍午後才三時三十
分比ヨリ立田山ノ方位ニ潰走スルニ因リ本丸ヨリ
射撃ス彈丸破烈シテ賊一名倒ル、ヲ見認然レ尺遠
巨砲敵ニ死生ハ判然セス

縣廳休戦敗賊二三十名計谷尾崎近傍ニ奔走スル
ヲ見認ム

法華坂昨日午後三時頃花岳細工町春日等ノ賊東
西ニ奔竄ス本日ハ一名ノ賊ヲ不見段山午前才
六時本妙寺近傍ノ家屋へ前日搬輸セル處ノ彈
藥ホテ輸セル為メ賊頻リニ銃屋へ集結ス因
テ之レニ指彈十発ヲ放テハ賊散走ス示後又未
リテ火ヲ放タントスルヲ以テ茲ニ指彈七発ヲ

連射シテ彼レノ放火ヲ拒ム午後四時比京町口ニ於
テ銃声頻也時ニ牧崎ノ藪中三四十名ノ賊ヲ見ル
因テ又之ニ榴弾一発榴霰弾二発ヲ放テハ彼レ
散テ京町方位ニ潰走ス
埋門四月十五日京町口ノ賊星ニ對シ彼レカ多
寡ヲ探ラントシテ歩兵一中隊巡查一小隊ト我
砲兵一令隊方張交戦數刻然ルニ賊ノ銃声俄
然ト絶ス以為ラク彼レ必ス奇策アリテ應セ
サルト恠ミシニ豈圖ラニヤ植木口ノ團兵已
ニ賊星ニ迫リ續々トシテ入ル爰ニ於テ全ク
連絡ヲナス
野砲宮昨日午後六時ヨリ京町へ出張シ出
京町向フテ山砲ニテ榴弾發射ヲ放撃シ然

然レ厄賊更ニ周章狼狽之色ニテ不應

其他方面休戦異事ナシ
下馬橋昨十四日川尻口我應援ノ兵ト連絡ヲ
通セシヨリ糧米及酒其他數種ノ物品ヲ代城
ニ輸送レ橋上通過堪ニス真ニ我兵ノ常狀大
ナリ

武庫主管籠城略記

武庫主管籠城略記

明治十年二月十四日諸官辭及ヒ諸隊詰メ切リ
 ト為ル職工備夫モ同シク滞城セシム借テ豫テ
 内達ノ趣モ之レアルバ各員ノ管スル所ヲ分劃シ
 專ラ防守ノ準備ニ着手ス而シテ守城ハ砲煩ノ要
 ニシテ缺ク可ラサルハ論ヲ俟タス然ルニ當砲隊所用
 四斤野砲於テハ砲兵支廠ノ新制衣ニシテ未タ漸ク
 一回ノ射的演習ヲ為シタル而已故ニ膛中及ヒ各部
 分共ニ一ノ傷損ヲ生セス充分其用ニ適スル良砲ナシ
 共山砲ニ於テハ然カラス何レモ數年ヲ徑過セシモノ
 ニテ幾多ノ射的及ヒ戰場ヲ歴シモノ故一モ善良ニ
 非ルノミナラス膛中悉ク定寸ノモノナク甲ニ裝填シ
 得ル彈ト虽モ乙六不合ナリ内ニ入り易キモノ丁ニ適

セヌ而メ之レテ實見視セサルモノハ怪マナル可ラサルト虽モ要
スルニ敢テ砲種ノ不可ナルノミナラス亦夕彈モ全砲用ナルモ
ハ皆旧制衣ニシテ其鑄造方甚タ粗悪ニテ加之筒ノ
制衣作正シカラスシテ每彈高低大小アリ而メ如此クナル
不適應ノモノユハ昨九年屢々引替ハノ儀ヲ乞ヒシ
所以ナリ砲彈共ニ不可ナリト虽モ之レヲ所用ニ供セ
ズニハ他ニ求ムハキノ道ナシ然レモ應ニ用セシムル術
ナシトセヌ多少ノ手數ヲ煩スト虽砲ト彈ト一々合否
ノ点檢チナスノ一事アリ故ニ狀由ヲ具上セシニ乍チ指令
アルチ以テ該隊ヨリ砲ヲ飯田丸砲彈格納所前ニ挽キ
来ツテ改査チ為ヌ則チ第一砲車ニ適セシモノハ白黒チ以
テ第一ト記シ而メ第二第三順チ追テ然リ而後
之ヲ収入ス可キ函ノ前或ハ後部ハ目撃シ易ラニ

為メ著シク右ニ陳ル各煩ノ符合チ大書シ區チ分ケ
テ儲蓄ス蓋シ戦闘ニ當リ騷擾チ極ムルヤ其砲
號ヲ行ツコアラント憂慮セシモノ尠チカラスト虽モ終
始一回ノ齟齬ナキハ其主任者ノ注意ニヨリシハ勿論
又各自協合ノ力ニ有リト云フ可キナリノ散彈ノ員數
實カ少ナルニヨリ具申シ三百五拾有餘侗チ制衣作ス
彈彈ニ小用ニ用ユキ鑄造ナキニヨリ鉛チ以テ代リナリ時地雷火チ作ルヘキ内命有リ而
メ火藥ハ長崎砲塲用トチ合セシノ六百餘樽一樽ハ八匁ニ
アリ砲煩白砲用等チ除キ尚多量剩余スルニヨリ應分
ノ作業ハ為シ得ルト虽モ點火スヘキノ要具ナシ故ニ兵
隊長等ト高議シテノ軌管チ地雷火藥函ニ附着セシ如
ク作り及ヒ門線チ急造シテ試ムルニニツナカラ其用ニ
適セリ然レモ門線ニテノ制衣作ハ容易ニ非ラサルチ以

テ上ノ軌管ニ決ス故ニ火藥、上ノ管、挽キ索ホテ該隊
ヘ支給ス

同十五日火藥小銃彈藥等拾納ノ倉庫ハ西出丸
或ハ飯田丸ニ在リ蓋シ此西所ハ外面ヨリ最モ認メ易
スキナ以テ亦敵彈ヲ受ケ易ク然レハ從テ葦田ウチクハワ
ルハ論ヲ俟タス故ニ扶實ヲ具陳シテ工兵ノ方面ハ商會
三嶽ノ丸櫛方ノ二所ニ土倉此土倉ハ内面ノ木材ヲ以テ建築シ
外面ハ丸ノ至ニメートル程土泥ヲ葺
ハ也ヲ築造スルノ決シ直ニ業ヲ始ム其櫛方ナルモノ
火藥ヲ山嶽ノ丸為ルモノハ小銃彈藥ヲ貯藏ス可キ目
的也

同十六日砲隊ヨリ火工下長兵卒數人ヲ率ヒテ山
主管ヘ派出シ砲彈臼砲彈等ノ裝炸藥ノ裝
填ヲナス當時主管ナルモノハ僅カニ三名ナル工ハ各

隊ヘ支給及ヒ諸準備ノタメ繁忙ヲ極ム

同十七日櫛方嶽ノ丸ノ土倉全ク竣業ス

同十八日早晨ヨリ人夫ヲ要シテ火藥小銃彈藥等

ヲ土倉ヘ移轉ヲ始ム業已ニ酣ナルニ及テ午後三時頃

口非常騒砲ヲ発スルヲ以テ人夫等戰端ヲ開キシトヤ思ヒ

ケニ大ニ吃驚馬狼狽ヲ極ム空ヲ掴ニテ四方ヘ散乱ヲシ人

ノ残ル者ヲ見ス彼レ等ハ皆死地ヲ遁出スルノ勢ヒニ

僅々數人ノカヲ以テ遏止スルヲ得ス一時ハ實ニ為スヘキノ

策ナク尤モ困惑セリ然レハ一二時間ヲ經テ又漸ク若

干ノ人夫ヲ呼ヒ集メ得ルヲ以テ此期ヲ行心マラス運轉ヲ

卒ニト終夜督責懈怠ナク勉勵セシムルト雖モ遂ニ

竭クス能ハス○守吉軍曹梅藤伍長當分出仕トナル

同十九日當時寒氣酷烈ノ際昨午後五時頃ヨリ

今日追堅氷深而相王厭ハス徹夜休憩許サス數拾回
ノカ役ヲナサシメシ故運夫大ヒニ疲勞セシヲ以テ斬日時憩
ハシメタリ然ルニ午前第十一時三四拾分ノ比ヒ本城火ヲ失セリ
然ルニ暴風猛烈烈ナルニヨリ乍チ四方ハ黒烟ヲ噴吐シ見ル
マニハ滿城火ナラサルナリ勢ヒ頗ル熾ニナリ之レヨリ先キ異徒
ハ既ニ八代逆傍迫闖入セリ報ヲ聞クヲ以テ尚更鎮其臺
安危存亡ハ此舉ニアルヘシト思惟セシヨリ各員手ヲカケ
テ飯田丸及城北ニアル工兵方面通行門内ナル銃器格
納所ホニ集合シ彈藥其他器械ヲ運出シテ火氣ヲ南段
ノ上ニ避ケシム或ハ小銃并銃工器具等ヲ倉庫ノ掃戸ヲ
チ批テ城外（防禦線内ニシテ）一ハ投落シ或ハ擔ヒ出シ寸器
モ滅燼セシトニ注意スルノニ飯田丸ノ彈藥取りタシ方ニ
就ヒテハ步砲ノ各隊長部下ヲ率ヒ來リ大ヒニ助力セリ

然レハ半途ニシテ礮兵士官出石少尉ノ説ニ從ヒ運ヒ出シ
チ止メ該庫ヲ火災ニ罹ラシメサルヨリ專ラ消防ノ術ヲ盡
セリ銃器格納所ハ午後第二時ノ比ヒ參謀副長見玉
少佐消防手ヲ從ヘ來リ自ラ奮勵指揮シテ防火セシ
ニヨリ遂ニ殃禍ヲ免シタリ然レハ已ニスナドハ勿
論ニシテ銃器モ最良ノ分ハ工兵隊等ノ助援ニヨリ
概子遺漏ナリ取り除ケタレバ萬一鳥有ニ屬セシムルト
虽モ銃器ニ於テハ一時差シ支ヘチ生セサルヘシ然レハ
カラ將來該器ヲ修理シ繕ニ供スル諸器械物品等
匆忙猥雜ノ際故取シ残シモ甚ナカラサルヘシ若シ之レ
等ヲ與テ燒失スルハ五旬余日防守セシ兵士ノ精神
タル兵器ノ修繕等ハ何ニテ為ス可キヤ直ニ此ノ
一字ヲ全ハセシハ偉功ヲ奏スニタル一部分ト云フモ不可

勿ルハシ之レヨリ先キ火薬庫破列衣セシト云ハモノアリ
一夫吐ケハ衆再ニ感シ臨時ニ言佳ヒシ職工人夫僅カニ
蕪耻アル數輩ヲ除ク外及ヒ定傭スラ怯懦ノ徒
ハ逃ニスルニ會日ス當時ノ混乱雜還言語ニ絶エタリ
然リ而人漸ク火勢衰工鎮滅ニ垂ニトセシテ以テ諸
具及ヒ諸品ヲ檢査スルニ數庫ノ格納所一モ灰燼
セサルカ故從テ消ニセシモノナク唯僅々些少ノ器具
ヲ毀傷セシノ三而人銃器ノ如キハ工兵方面材木置
場前及ヒ歩兵芟拾三聯隊營等ハ持テ運ヒシモ
合セテ千四百余挺ノ多數ニ到ル之レ比日歩工兵及ヒ工兵
方面ハ奉職ノ人々助援ノ力ニ係ルト云ハニ夜ニ入定
傭夫ヲメ曰庫ニ搬復セシム即日事務所ヲ宇
土槽ハ移ス

同廿日陸軍勝田軍曹日当分出仕ト為ル○午前賊先
鋒千五百人程川尻驛へ到着セシ趣キ布達アリ未
前ニ掲ルカ如ク運搬人夫二回ノ逃ニシテ火薬及ヒ小
銃彈藥ヲ悉ク土倉へ運ヒ入ル能ハス然レモ現時
市井ノ人民ハ荷物ヲ負擔シテ遠地へ避ニトスルノ景
況ニハ壁言ハ高賃ヲ抛テ之レヲ招クモ佳クハス然
リトテ勿ニ諸スヘカラサル大要件ナレハ状由ヲ具上シ步
兵芟拾三聯隊ヨリ使役兵五拾名ヲ乞ヒ得タリニテ
以テ早天ヨリ運搬ヲ始メタリ而メ此兵酷ク勉勵セリ
故ニ午後二時頃ニ到リテ全ク終ル先ツ此ノ一段ハ漸ク
目的ヲ達スト虽モ将来戦闘晝夜ヲ分タス必死
防衛ヲ為ス際ニ到ラハ兵士ヲ要シテ各砲臺及
ヒ各哨所へ兵器彈藥等ヲ運搬為サシムル克ハ

ス然レハ之レカ為メニ供スル人夫ヲ要セサルヲ得ス而メ前
ニ速ルカ如ク更ニ雀ノ可キノ術ナシ大ニ意ヲ注シ
煩ハセシニ偶福岡營所ノ兵貳中隊入城スルニ會ス而
メ此兵ニ屬メ彈藥其他諸品物ヲ負擔シ来リシ人夫
リ故ニ直ニ會計官ニ高會ニ廿五名ヲ得ル此輩ハ比日
高瀬近郷ノ者ニテ同驛ヨリ城内迫七里以上ノ道
程ヲ疾足ニテ運搬シ来リシヲ以テ疲勞且危殆ノ念
ヲ生シ留ルヲ止告セサルト虽モ懇々説諭ニ加ハルニ金
力ノ為メ漸ク屈服使役スルヲ得タリ即日ヨリ諸
哨所ハ彈藥ヲ乞ヒニ從テ運搬セシム○大迫大尉ノ需
求ニ任セ多卒焼キ藥ヲ作ツテ渡ス
同廿一日薩賊熊本城下ハ侵龍衣セシ報アリ故ニ我
適度ノ砲壘ヨリ山野砲ヲ發射シテ彼レカ進路

ヲ妨害セシム未タ戰鬥ナシ
同廿二日黎明ヨリ賊徒城ヲ包圍シテ攻殺手最モ慄
悍ヲ逞マシハスルト虽モ我亦豫テ期セシトテ奮
戰勇鬪死ヲ志シテ防拒ナスニヨリ却テ彼レヲ挫マ
スニ到ル而メ此際彼我ノ砲聲銃音山峪ニ轟響
シ訇ニ一時二千百ノ大雷落テ掛リタルカ如シトハ實
ニ如此キ時乎就中段山方面及ヒハ藤崎社前等
鬪爭酷々激烈心ヲ加ハ銃器ノ損傷砲銃彈藥ノ
消耗スルモ從テ多シトス然レモ各戰線ヨリ乞ヒ
来ルモノ陸續絶ハス當時ノ混雜恰モ又一戰場ニ
異ナラス○運搬夫清田多惣次ナルモノハ藤崎神社辺
ニテ胸部重傷ヲ受ケテ后ヲテテ瑜エズニテ没ス○是ヨ
リ先キ飯田九ヲ以テ砲銃彈藥ノ支給所トナシ

且ツ此所へ銃工若干名ヲ出張セシメ小損ノ分ハ修理
ヲ加ヘシメ毀損大ナルモノハ本工廠へ送ツテ改繕セシム
同廿三日防戦ノ景況前日ニ異ナラス熾ニナリ故ニ彈
藥ノ請需及ヒ兵器ノ損傷夥多ナリ扱テ當時砲
銃ノ彈藥ヲ收藏スヘキ土倉ニ乏シキヲ以テ最モ
敵彈ヲ避ケ得可キ石垣ノ下或ハ凹形ニシテ人跡ヲ
遠ケシ地へ天幕ヲ設ケテ雨而路ヲ交カシメ敷ケ所
ハ方置ス然レモ現時ハ賊彈ノ飛來セサルノ地ナキ
ノミナラス薄暮日迫ハ小銃彈ノミナリシカ夜ニ入テ嶋
崎及ヒ新町ノ方面ヨリ發射スル所ノ四斤彈我
彈藥貯藏田所近方へ落下スル甚ナカラス危
キ一薄水ヲ踏ムノ思念有リ故ニ工兵方面ニ高議
シテ飯田丸ヨリ平左門丸へ通行路ナル屈曲セシ

所及ヒ地蔵門跡ナル地へ穴倉ヲ穿堀シテ各種彈
藥ヲ儲蓄シ而シテ本城燒失跡及ヒ步兵第拾三
聯隊ノ前ナル射的場ハ避彈ニ適宜ノ地タルヲ以テ
砲銃彈藥ヲ置カシム
同廿四日戦鬪ノ状形引キ續キ變ルルナシト雖モ稍攻
撃ヲ緩ムセリ彈藥ノ支給兵器ノ損毀等又大
同小異ナリ而シテ彼拾二斤ノ天砲ヲ以テ城中へ放射
シテ試ム嘗テ此燒彈我飯田丸ノ兵器庫へ落下シ
殆ト燃ヘ上カラントス然レモ機ニ應ジ溜水ヲ注灌
シテ漸ク消シ止メタリ當時同所ノ請庫ハ四斤榴
彈ヲ射撃スル最モ烈シク屋上日々七八ノ彈ヲ受
ケサルナシ故ニ諸器物ノ格納上大ニ困難ス
同廿五日彼未タ攻戦ヲ怠ラスト虽モ我勇兵ノ精銳

ヲ極メテ打御宗スルヲ以テ大ニ勢カチ挫折シ容易ニ抜ク
克ハサルヲ察シ迫戦ヲ試ミサレニ到レリ○福岡營所
兵悉皆亡ニヒール銃ヲ推乃帶スルヲ以テスナイドル銃ニ引キ
替ヘシム○各堡壘ヘ亡ニヒール銃ヲ渡シテ夜間探リ放
射ニ供セシム

同廿七日燃焼藥ヲ多数作ルヘキノ命アルヲ以テ直ニ
着手シ數日ヲ經テ二百有余伺ヲ製作セリ因テ再
後進撃手毎トニ數拾伺ツ必ス各隊ヘ支給ス○賊又
安己橋ノ近傍ヘ廿搦臼砲ヲ据ヘ日夜間断ナク頻リニ城
中ヘ射撃ヲ試ム而ルニ此砲彈ハ他ノ砲彈ト違ヒ空天
ヨリ落下スルモノユヘ土堤及ヒ石垣等ヲ以テ防キ難シ
然リトテ許多ノ兵器ヲ土倉ニ収ムルハ輕微ノ工業ニ非
ルハ論ヲ俟タヌ又品質ニヨリ穴窖ヘ措キ難キモノ

アシハナリ則濕氣ヲ請ケ易キモノ酸化スヘキモノ等ト
ス蓋シ此ノ艱難ナル原由アルヲ以テ諸具ヘ傷害有ニ
チ恐シ煩悶焦慮甚ナカラス日々此所彼所ヘ轉換
シ衍心チ勿ラフニテ專ラ助ム故ニ僅々二三ノ器具ヲ
破毀セシニミテ毫モ各隊ノ差シ支ヘチ生セサルハ多少
ノ注意ニヨルト虽モ山豈幸福中ノ幸福ト云ハサルヘカラサ
ルナリ

同廿八日引キ續キ飯田丸兵器庫ヘ賊彈ノ落著ス
ル一丸モ多ク爲メニ庫内諸所ヲ破壊ス而メ兵器損
傷逐次減少セリ○銃工ニ命メスナイドル銃(替鐵全火門)ヲ頻リ
ニ製衣作ス

三月三日歩兵營前ナル射的場ノ南岸ヘ洞藏ヲ
貳伺穿開セシム三日ニシテ就成ス則砲銃ノ彈藥ヲ

貯藏ス而メ又更ニ宇土槽ノ對岸一則嶺方ヨリ空壕ニ一
洞倉ヲ開作シ火藥及ヒ彈藥等区分シテ格納
セリ而メ此洞倉ハ他ハ比スルハ廣潤ニシテ且ツ位地及ヒ土壤
モ甚ク可ナリ然レテ道路ハ山山岸ヲ新開セシテ以テ
險隘ナルヨリ出入運搬等ハ艱難ナキニモ非スト
モ避彈貯藏ノ爲メ最良ノモノトス
同八日運搬夫八名間隙ヲ偷ニテ逃亡ス故ニ其竹助ハ達ス
同十二日午後四時頃ロヨリ段山ニ拠ル所ノ賊ヲ龍衣
ヒ火ヲ放ツテ迫戰ス而メ此鬪争ハ實ニ偶然ニ發
リシ者トシ故ニ小銃及ヒ彈藥等若干ヲ片山即前持
チ運ハシメ主管又出張シ請求ニ應ス當日我兵
ノ進ムヤ勢ヒ甚ク猛烈ニシテ一撃ニ追攘セント
奮戰突攻終宵止マス已ニ翌十三日ニ及フト虽モ

渠レ亦必死拒戰ヲ逞マシユウスルヲ以テ尚後ク能ハス
故ニ更ニ策ヲ設テ若子ノ迂回兵ヲ入渠ホシカ背後
ヲ龍衣ハシムルヲ以テ前後ノ夾撃ニ支柱ニ難キヲ死
者百余名傷者四人ヲ殘シテ漸ク午後莒ノ二時頃
大ニ狼狽ニシテ余賊島山崎村等ハ潰走スルニ
於テ始メテ巢窟ヲ西復滅スルヲ得タリ而メ小
銃二百三十拾余挺同彈藥數百発ヲ分捕セリ此
小銃ハ種類甚ク混淆セリ然レテ死之レシ大別ス
ルハ則チ一五ニシテ日取モ多キニ居ル而メ此彈藥
函ハ木製衣ニシテ背囊ニ模倣セシモノナリ表面
ニ莒五番大隊莒八番分隊又側面ニ國府ト記セリ
同十四十五日ニ至リ赤尾口ノ賊壘ヨリ四斤砲ヲ以
テ頻リニ我前隊營内ハ射撃ヲ試ム之レカ為メ病

室ニアル傷者一二名死セリト因テ埋メ門ノ下タナル砲
壘ヨリ應戰チナスカタス彈丸ヲ送ルト斷チカラス
同十六十七十八十九廿廿一ノ六日間更ニ奇士支チシト虽
モ花岡山及ヒ山崎ホノ賊壘ヨリ飯田丸ノ兵器庫
へ放射スル砲彈未タ滅セス為メニ屋上降巢ノ如シ
○スナイードル銃彈藥ノ請求ハ大ヒニ減セリ然レ
探リ放射チ為スタメノ工ニロール銃彈藥ハ日々支出
セサル一ナシ又砲彈ノ消耗モ稍減セリト虽モ藤崎
縣廳飯田丸桙砲營ホノ諸壘ハ少キチ加ヘス
同廿二日當時ハ赤子候潤湿ニシテ時々強雨アリ
然ルニ豫テ彈藥ヲ貯ヘ置キタル射的演習所
ハ元來空壕ニテ流出スヘキ所ナキヨリ雨水
溜淀ニテ恰モ川河ノ如シ然ルニ同所へ開鑿

セシ洞倉ハ最モ低地へ設ケニヨリ全土水ニ浸タサレテ
既ニ収蔵セシ彈藥函モ下層ハ外面へ顯シケルニ
至ル故ニ雀夫チシテ城ノ本門内石垣ヲ矩形也矩形ノ地
へ運ヒハシ兩路ヲ凌カシムルタメ工兵方面へ商會
木板ヲ以テ假リニ屋根ヲ作ル
同廿四廿五ノ兩日ニ至リ我カ職工廠近地へ賊ノ
砲彈落着スルト夥シク酷タタ危殆ナルヲ以テ天
守臺下ナル石門ノ傍へ工人チ人カケテ就業セシム
同廿七日日黎明ヨリ京町及ヒ本妙寺へ掘ル處ノ
賊ヲ撃ツ命アリ故ニ埋メ門内并ヒ山邸ノ前へ銃
器及ヒ銃砲彈藥其他燃燒藥等ヲ運ヒ主管
出張シテ各兵ノ需求ニ應ス扱テ運搬夫少ナキヲ
以テ土兵方面ヨリ若干人ヲ借り合セテ使役セシム

半途ニシテ砲兵隊へ拾貳拾白砲榴弾ヲ數拾個
支給ス扱テ京町口ノ戦況ハ數此若ク陷イシ火ヲ放
ツテ巢窟ヲ燒燼シ大ニ守地ヲ擴ルト虽モ本妙寺
ノ攻撃ニ於テハ然ラス彼レハ要壘ニ扱ツテ力拒シ
我レハ頼ム可キノ地物ナシ故ニ容易ニ扱ク可ク
ルヲ知察スル兵ヲ城中へ退カシム○未タ小銃彈藥
六多シカラスト虽モ砲彈ニ至リテハ剩余甚々少シ
故ニ昨九年一画射的演習日ニ用ヒシ彈四百四拾有
余個アルヲ以テ應用セシメテ爲メ各部分ヲ修理セ
リ然レニ矢筈入ス可キ信管ナシ肉ヲ之レニ代ラシムルニ
木栓ヲ彈口へ筈メ而メ紙管ノ入り得可キ孔宛
ヲ穿タシメ以テ其用ニ充テシム此工業ヲ爲サシム
ルタメト雇夫上笠庄八ナルモノ一肢一脚ヲ傷ツケ後

チ之レカ爲メ不具トナル且砲彈ノニテラス又之レニ屬ス
ルノ管及ヒ紙管等モ大ニ欠乏スルカ故ニノ管ノ
代用ニ門線ト決シタルヲ以テノ病院ヨリアルコイルヲ數
瓶乞ヒ受ケテ制衣作スルト虽モ紙管ニ代用セ
シムハキモノナシ之ニヨツテ已ムヲ得ス素ヨリ充全ノ
モノニ非ルト虽モ假リニ器械ヲ作ラシメ該品ヲ制衣
造シ試ムルニ殆ト秤數等モ差違ナリト適合ノ
モノタルヲ表セリ之ニヨツテ考ウレハ必死ノ人カク
備ノ良器ヨリモ優レル故ト
同廿九日參謀副長兒玉少佐ヨリ拋擲彈
制衣作ス可キノ命アリ故ニ厚キ燒キノ硝子瓶へ
火藥及ヒ釘ノ兩匹ヲ截殺セシモノト硝子瓶ノ
碎片等ヲ填實スル且ツ瓶体ハ紙ト布トヲ數

重貽り纏ヒ口部ハ木管ヲ嵌入シ門線ヲ以テ導
火トシ一二抛ヲ試ムルニ充分具所用ニ適應ス
可キヲ瞭知ス因テ病院ヨリ大小ノ瓶百五拾余個
ヲ請求シ而シ直ニ制衣作ヲ始メ一週間ヲ待テ始ト
一百個ヲ作ル故ニ貯蓄シテ所用ノ日ヲ待リ○是
シヨリ先キ突圍解脫ノ準備ヲ為スヘキノ内達アリ
ヲ以テ小銃及ヒ山、臼、砲等ノ彈藥全良品ヲ撰
ミ極メテ輕便ニ荷持ヘテ為ニ緩急ニ應ヒテ運
出サント天守臺下ナル堅固ノ石門内ハ貯藏ス○
糧米大ニ減耗セシヲ以テ粟ヲ若干分混加セシム
四月二日各種彈藥ノ員數殘余多カウサレテ以テ
各隊ハ申報シテ成ル可ク丈ケ無用ニ員ニセサレヨ
ウ注意セシム

同四日ヨリ本營諸官齋ハ朝晝ノ二食ヲメ米粟ノ
混化粥トナス各隊及ヒ力役ヲ為スモノハ唯ニ朝一
回ノミ之レニ因テ滿城ノ人々大ニ憂慮スルト虽
モ又却テ不撓ノ精神ヲ堅ハセリ○北方則植木
方面ノ砲聲ハ二月下旬ヨリ晝夜間斷ナク耳底ヲ
離シス然シ死他ノ方面ニテハ漸ク西位河内辺ニテ
軍艦ヨリ發放スル巨大ノ砲聲アリ○然ルニ現時
ニ至リ南方ニ當テハ力ニ銃音アリ聞説ク應援別
隊突撃手ニ來ルノ音響ナルト
同五日當時安己橋近傍ノ賊壘ヨリ射撃スル柵
臼砲彈頻リニ飯田丸及ヒ獄ノ丸ハ落下シク危殆
限リナキヲ以テ同所へ建設セシ土倉彈藥格納ノ屋上へ
厚サ一寸程アル木板ヲ敷拾枚ヲ重葺セシム○扱テ南方

ノ後軍近ツキタルニツ有ルハシ音聲著ク而メ午後ニ
至リ木原山ヲ隔テ黒烟天ヲ覆ヒ酣戦ト知ル礮聲甚々
響盪然タリ而メ此ノ方位ハ小川駅ナルヘシト之レヨリ先
キ討賊ノ別軍八代地方へ上陸シ行ク賊ヲ敗リ北
向シテ進軍スルヨシ捕虜ノ陳スル所ヲ以テ知リ得
タルカ故ニ該團ノ迎接セシト居城ノ衆庶上下トナク貴
賤トナク欣々然トシテ大ヒニ勢カヲ振起シ今一層進
来セハ夾撃シテ殲殺セシムヘシト待ツ一極メテ切ナリ
○飯田丸ナル林上砲々敵ノ賊ノ砲彈ヲ落下シ為メニ彈
藥車ノ各部分ト車輪四個ヲ傷タメリ
同六七日ニ至リ大ヒニ砲聲近ク守土辺ノ鬪争ナルハ
キヲ知ル故ニ八月ヲ以テ突圍ノ策ニ決シタルヲ以テ准
備ヲ爲ス然ルニ彈藥運搬夫甚々之ニキチヲ以テ戰

線内使役ノ為メ工兵方面ヨリ若干ノ人夫備ル一約
其他一切ノ物品配與ノ人員ヲ定メ而メ突圍スルキ兵
ノ携帶銃ハ小損タリ死引キ換エシメ應分ノ彈
藥ヲ該隊工支給セシム
同八日午前第四時若子隊兵ヲメ賊壘ヲ衝突セ
シメ別ニ大隊ヲ撰擢シテ突圍ノ兵ト為
共ニ戦ハテ安己橋ヲ通過シ道ヲ澳町ニ取リテ南方
旅團ノ本營へ行カシム而メ此兵ノ彈藥分配ヲ司ラシ
ムルタメ当分出仕勝田軍曹梅藤伍長ハ雇夫ニ拾
名ヲ以テ小銃彈藥一萬五千発ヲ擔ハシメ而メ從
行セシム實ニ當日ノ戦鬪ハ開戦後ノ大捷ニシテ意
外ニ突圍モ容易ニシテ解脫兵ハ無ク更ニ賊壘ヲ
蹴過シ加之安己橋向フナル華族細川護久ノ持

子截中ニ貯蓄スル所ノ米俵ヲ城中ハ運搬スル一七百
有餘俵ナリ之レ誰カ參謀官ノ指揮宜シキヲ得タ
ルト各隊將校兵士其他各部主任者ノ功勞ナリト云
ハサラニヤ實ニ龍城大局ヨリ論スレハ又以テ幸福ノ著シ
キ者也トス為メ人心稍ク安シ而メ兵器彈藥モ若
分捕ス扱當日ノ戰爭ニ供充スルタメ黎明ヨリ兵
器彈藥及ヒ燒キ藥其他抛擲彈等ヲ藪内橋
ノ内ハ運ヒ寄セ主管之レシヲ統轄シ需求ニ應ジテ
各戦線ハ分配セシム而メ抛擲彈ヲ實地ニ用ヒ
此日ヲ以テ始メトス其困ミヲ衝クノ際賊壘内ニ
投抛セシニ多少ノ功アリテ死傷セシ者モアリシ由
○京町口モ攻較手ヲ試シニヨリ銃砲彈藥ヲ若干支給
セリ

同九日漸次山埜砲ノ車臺及ヒ裝藥杖其他工兵
所用ナル丁子鋏等毀損セシモノ甚ナカラス故ニ修
理セサルハカラス然ルニ諸要用品欠乏ノ際ニ從ヒ已チ
得ス臨機ノ所分チ以テ裝藥杖ノ折斷セシモノニ
代用スルニ歩兵用ナル体操器械ノ内適應ノモノ
ヲ以テシ裝藥杖ノ毀損セシ部分ヲ修繕スルニ馬尾
ヲ以テス實ニ此ノ困難ノ狀余ハ推測スヘシ
同十日九日ヨリ未タ南方ニ戰鬪ト思ハ可キ
砲聲ナキヲ以テ突出兵ノ舉動ヲ危ム各砲壘ハ彈
藥ノ支給大ニ減少セリ最モ貯蓄品殆ト竭
トシテ廿日ヨリ引キ續キ翌十三日ニ至ル迄宇土方
同十日此日ヨリ引キ續キ翌十三日ニ至ル迄宇土方
面及ヒ御船ノ方位ニ當ツテ砲音甚々熾盛ナリ

然し正日没ヨリ稍声御音絶ハ實ニ竹篝火ヲ認
視ス既ニ如此ノ勢ニ迫リタリト虽モ三五ノ日ニ經
過スルニ非ラサシハ聯絡スヘカラサルヘシト豫想セリ未
花岡山及ヒ山崎ノ賊壘ヨリ砲彈ヲ飯田丸兵谷
庫ハ射撃スル一絶エス○豫テ鮮脱用ニ準備シタリ
廿拇臼砲彈ノ裝炸藥ハ多少潤湿セシニヨリ詰メ
督ヘチ為サシム

同十四日黎明ヨリ圖ラサリキ援軍席捲シテ俄
然ト進入シ来リ酣戦ノ御音音山峯ニ觸シテ脚
下ノ如シ故ニ久ク高所ハ登リテ遠ク南方ヲ取望
スレハ團兵疾クモ川尻驛近傍迫侵来シ当ニ
同所ヲ爭ルノ景况判然トメ己ニ團兵ヨリ放
射スル所ノ砲彈著シク眼目ヲ遮リ見ルク銃

音近キヌ叔テ該レ勢ニ立チ至リタレチ以テ人々
ノ歡喜言言ニ方ナリ何レモ其後生ノ念ヲ棄テ援軍
ノ来著チ今ヤ遲ニシト待ツ一警ルニ物ナシ而メ午後
三時ヲ下ル頃イ安己并長六ノ二橋ニ向ヒ撤兵チ
以テ殘賊ヲ追攘シツ、既ニ市街ハ進入シ操練
場ハ来ルヤ不口ナヤ打チ方止メ一ノ號音ヲ発唱セ
シムルト共ニ下馬橋ノ傍ニ整列ス城兵此ノ形狀ヲ聞
知スルヤ乍チ山嶽ノ丸下馬橋内等ハ馳セ集リ着
到セシ援軍ヲ望見シ思ハス大聲ヲ發シテ戰捷
ヲ疾員加員シ合セテ功勞ヲ慰スルニ到シリ鳴呼此
情状豈偶然ナラコヤ實ニ五旬有余日孤城ヲ嬰
守シ不屈ノ精神ヲ全ハセシモ其目的トナス処ハ
来援ノ一途アルハ然ルニ北方ノ砲聲ヲ聞キ得

タル当初ニ於テハ今暮ル来ラシ明且ハ着スヘキト
渴ミテ水ヲ乞ウ如ク待ツト虽モ數旬ノ久シキ
ヲ消過シ一卒タモ来ラサルヲ以テ大ニ失望ミテ失シ
旅團ハ暗ニ頼ムニ足ラサルノ念ヲ生セシメタリトモ
偶此ノ不可思議ノ助援兵来着シ勿念有トメ聯絡ヲ
保チヌルヲ以テ愁眉ヲ開キ為メニ時夢幻ノ疑ヒ
ヲナサシメタリハ豈宜ナラスヤ宜宜ナラスヤ實ニ
事ノ成否ハ敢テ豫期スル能ハザルモリナリ

追加補漏

五旬余日ノ籠城故諸品ノ欠乏ハ論ヲ俟タスト
虽モ免ニ角一切ノ修理等ニ差支エナキハ准備ノ
際銃鞍兩工ノ必要品及ヒ其他所用ノ見込
ル許多ノ品物ヲ求め置キタル所以ナリ

籠城中鍛工及ヒ鞆工等ハ當主管ヨリ他ニ非シ故
乞ニ任セテ工兵方面其他會計部病院等ノ
工業モ若テテ取り行セタリ

主管必用ノ諸帳簿等消燼セシメ此ハ當時ノ
勢ヒ該品ヨリハ寧リ口兵器彈藥等ニ過失勿
ラシトテ最モ急務トナスヲ以テ願ルニ違ラズ
ニ属セシメタリ

此ノ略誌ハ竹籠城中ノ手記及ヒ暗記等ヲ折衷シ
テ記載スルモノナレハ素ヨリ多少ノ遺漏謬誤ヲ
免カシス○書中月日ノ缺ケタルハ異扶ナキモノ
ト知ル可シ最モ銃砲ノ彈藥ヲ各墨ハ支給シ
及ヒ兵器ノ修理引換ホ為サハルノ目ハナシ然レ
徑惚ノ際ナシ其隊各員數等詳悉スル能

NO

明治
年
月
日

經理部
日誌

又多少手記坐すニ録セシモノアリト異ニ充
全セス故ニ記スルニ無益ニ爲スルヲ以テ省畧ス

庚申 辛巳 日

癸卯 年 日 記

02

二月十四日非常三号御達ニヨリ

本日午食ヨリ隊外將以下小便從僕馬丁産夫ニ至迄官
賄ニ申東嶽丸ニ炊爨所ニ設ケ會計書記ニ附ニ準
備ニ成ス

右ニ付食数明瞭ナラサルニヨリ各所ニ於テ食数報
知帳ニ製シ人員之増減ニ午食朝ニ夕食昼ニ此
順亭ニ以テ進達ス

一日費消米壹石六斗内外ナリ

二月十七日

向後高人ニ用向百六時ハ高人應接所ニテ應答
候疎司契ヨリ申談ル

二月十八日

本日午後高二時非常号砲ニ以請兵ニ配付ニ付

開戦、可相心得旨御達、
二月十九日

勝第一号夷思島縣暴征討、御達、
本日午前第十一時本臺文庫、近傍ヨリ火起リ時
西風烈シクシテ直ニ天井ニ移ル此時諸官員始ニ消防
ニ百方尽カスルト雖モ終ニ防能ハス各棟ニ延焼
メ會討官員ハ部中、金貨書類其他僅ニ貯藏糧
食等、他江運轉メ事ニシテ金貨ハ焼失十三ト
銀トモ被服品及糧食品ハ九三十日間、貯藏、方
ハ悉皆焼失セリ
一 本臺及、會計部各倉庫城中建物不残焼
失残ル處ハ金庫此一棟之内ニテハ被服庫ナリ
雜具伎庫宇土槽ニ藏、丸槽等ナリ

一 此時風烈、爲ニ工兵方面本署及、城外藪、内士
族邸上、通町ヨリ安政橋川端ニテ三四丁余、商家
類燒于後四時鎮火ニナリ
一 石、付本臺及、會計工兵方面等各部ヲ元、衛
戍、衛所ニ設テ事務取扱ラセリ
一 等一賄所燒失ニ付等二賄所ニテ各官解、分モ炊爨
ヲナス
一 糧食品燒失ニ付會計、官員夫々手分ラナシ市
中ヲ奔走シ糧食ヲ得ニ着手メ各官大ニ尋メ処
アリ若干ヲ得メ、余ハ九二百余俵梅子五樽斗
沢庵清十三樽
一 熊本縣裁判所ヲ御舟里ニ移メ、報アリ
一 午後八時訖早ニ火起リ東西所々ニ延焼ス

二月二十日

一本日糧食品買辦方必至尽カニテ大ニ其準備ヲ
成人積米二百余俵沃聲清二百俵余

一勇一賄所燒失ニ付永固邸ニ移シ本日夕食ヨリ炊_ノ煎_ノ焚_ノ
セリ一日費二百余

一本日午後七時頃新甲段山山寄京町ノ地方ニ火
起リ終夜鎮火セズ

一警視司巡查配布哨所ニ食事支給、旨照會
ニテ夕飯ヨリ勇二賄所ヨリ給共ス

二月二十一日

一此日高橋ヨリ于魚塩魚買得ル丁甚多ニ大
ニカヲ得タリ會計官員派出セリ

一本日午後二時各哨所ヨリ市中江炮撃手ス為ニ

人家ニ火起リ各所延焼ニ残ル如無キカ如シ煙
ハ東西南北ニ吹散シ市中ノ景況ヲ弁セズ然レモ
賊一モ應ズル者十三

病氣引 渡辺栄太 廣田真藏

逃 込 青木平四良

本日ヨリ病氣
便帰途ノ之用
菊池源吉

一酒三拾樽本日買ハル

二月二十日

一手前七時頃ヨリ三藤寄段山等ヲ始メ諸口ハ賊
寄来ル大小砲戰甚敷双方死傷アリ市中ノ
煙火又甚シ

一三藤寄段山午後八時頃ニ至リ砲声漸ク寂ナリ

榎山典倉傷ヲ蒙即死ハ庄司大尉五島中尉
其他將校下士卒、死傷若干アリ、典倉中佐ハ
後死ス

二月二十三日

一午前第三時賊再々藤寄段山口ニ来ル、小砲
甚々熾ヤリ南北東、諸口ニ又同シ午後八時三方
位、方ハシク閑ヤリ西面ハ砲声止時十三九時ニ
至リ止ム他事ヤシ

酒四樽 第三大隊ハ 酒六樽 巡查隊ハ

酒一樽 會部ス夫 酒七樽 病院ニ

一第三大隊賄ハ十三縣隊賄所ニテ本日夕ヨリ支給ス
不日着スル十四縣隊賄ハ第二賄所支給、旨決定
ス十三縣隊賄所一日、費、消米七百斗

一糧食ニ拾人分日々縣官ヨリ請求セリ

一天幕、毛布ニ拾枚、藁若干石縣官用ニ渡ス

酒七樽 武庫主管ニ 酒七樽 十四縣隊第一

大隊ニ 同三樽 砲兵隊ニ

同一樽 警視隊ニ

一午後六時頃京町及ヒ藤寄地方ニ火起ル同如
神毀燒失ス

二月廿四日

賊子葉城、哨所ニ迫ル類リニ銃撃ス

一同日賊段山口ニ寄来リ、小砲戦ス賊ハ北園山ニ百リ

一是マテ一時一中隊ヲ河内江岸張セシム地景探偵、

為ヤリ一方隊ヲ新町花ニ埒井京町ハ進撃各地共

小戦アリ

一午後砲隊高橋へ着て此等守爲探復穴戸正糧ヲ
被遣り

二月二十五日

一本日諸口砲聲ナシ唯休戦ノ如シ

一新町地方線外へ我糧指込米拾二俵ヲ得ル

二月廿六日

一本日モ休戦ノ如シ嶽ノ丸及々藤寄ノ砲臺ヨリ

花園ヲ砲撃スニ僅ニ數発ナリ

二月廿七日

一午前四時本臺ニテ喇叭ヲ集メ哨兵線内ニ於テ
運動喇叭ヲ奏セシム

一本日聚糧トシテ幸町地方へ出會津屋ニテ濁
酒數十樽ヲ得テ時護兵四十名出張ス

一午後三時坪井地方歩兵三小隊巡査隊進撃アリ
夕五時引揚タリ城中本臺前ニ於テ酒ヲ賜ル

二月廿八日

一午後五時ヨリ山寄地方江聚糧ノ爲線外ニ出ル
護兵四拾名此時得ル米、米四拾俵余午後四時
歸ル賊向町ノ方位ヨリ米撃スニ爲テ引揚ル傷ヲ
被ル者ナシ此日帰途聚糧味噌一樽粟九俵小麦
一俵アリ

三月一日

一本日午後五時哨兵線内ニ有之士族ノ倉庫工
閉口封印有之庫内雜沓極ル實ニ六ハカラサレ
ノ所業ナリ

一午後五時爲聚糧坪井地方ニテ得ル米、玄

年四拾五俵護兵十四縣隊、四中隊兵十名大ニ免勵ス
三月二日

一午後六一時過キ唐人町ニ百之倉庫ニ貯藏ノ玄
年為要糧ヲ護兵ヲ引率シ着手セントスルヤ賊
兼テ設アル知距離僅ニ壹町ニテ発銃ス各自
屈セム象ヲ勵シ取纏ル者僅ニ四十俵ナリ此時
負傷兵卒一名アルモ輕傷ナリ

一午後一時三十分ヨリ賊花園ノ砲台ヨリ城中所
々ニ発砲ス午後十一時頃マテ飯田丸ヨリ之ニ應シ
発砲ス故ニ該所ノ彈藥暗ニ會討部ニ幕跡
へ移ス因テ金櫃ハ宇土槽ニ移ス

一捕縛人ヲシテ本日ヨリ年搦方申付リ
一午前九時ヨリ縣廳ニ有ル年不殘引取ル四十五俵アリ

一同十時頃定戸監獄帰台ス

但シ定戸高瀬ニ官兵ニ會ス彼地彼我
ノ事情及ヒ三好少將殿ニ謁ス又具ニ景
況ヲ報シタル等、詳細ハ承文ナレハ畧ス

一午後四時會討之各課長及ヒ各隊討官ト會シ
テ安征ノ用意ヲ議ス

三月四日
一折々砲撃手佗事ナシ

三月五日
一本日法令書御達アリ

一午後一時頃北嶺本地方ニ大小砲撃頻リニ
聞ユ

三月六日

一午後一時過キ京町會津屋粟取釋スル
百九拾六俵ナリ
一昨日出征人名簿及て居残り之者御達アリ
三月七日

一昨日六時三十分ヨリ西北地方段山及京町
賊寄来リ銃聲頗ル甚シ九時半ヨリ南ナリ
一当番官員昨夕ヨリ同廳ニ引移ル
一昨日午後四時半被服取番庫ニ賊ノ破裂
丸着発シ各官等ヲ消去ス依テ金庫ヨリ
金函不残取出ス同夜暗リ途中ニ埋ム
三月八日
一午後第三時ヨリ觀音坂地方ニ粟釋シ粟
取拾九俵ヲ得ル

三月九日

一昨日午前第十時差ニ賄込賊ノ導丸着
奈ニ奥山軍更補鳥ノニ郎死ス実戸監役
左腕ニ重傷ヲ被ル実戸直ニ入院ス
一各隊各部ニテ使用ノ十便給仕諸職人崔夫徒
僕馬丁ニ至ル迄朝昼夕夜四点呼換查候棟
御達アリ夕ヨリ直ニ施行ス
一線外ニ御用向ノ者ハ參謀ヨリ免許印鑑ヲ
可受旨御達アリ
一守城中何事ニヨラス怪異ノ者ヲ見認ル時ハ速
着手候棟御達アリ
一會計ヲ便ス否采本亭兼テ會議所便役ヲ
處處昨夜血亡ノ旨官寄大主理ヨリ届出ル

一本日午後五時本營、天幕ヲ城中暗道ニ移シ
將官始轉移アリ

三月十日

一出征中居残り人名御達アリ

一夜間北、方銃声甚頻ナリ又西河内、方位ニ

同棟ナリ

一本日午後四時頃第一砲所ニ砲彈着発ニテ攻

夫三名傷ヲ被リ

一本日賊ニシテ矢文數本来リ其文畧ス未文ニ焦

獲ハ皆破レリ城中ノ者共兵器ヲ捨テ来ラハ一軍

ヲ助ケル者ナリトアリタリ

三月十二日

一本日山崎地方ニ鳥取糧人夫ヲ數十名引去リシ

發定ニルニ積米六拾九俵ヲ得リ

一同日京町會津屋裏糧酒七八樽ヲ得リ

一同日舞廳前川中ニマシ魚油二十六樽ヲ發糧ス

一本日午後四時半段山ニ戦争ヲ始各所砲臺ニ砲

撃手又晝夜不止夜食ヲ給ス

一本日前第十時頃賊、便ニ来リ其本音ハ前矢文意ニ異

ナラス

三月十三日

一段山戦争昨日ヨリ不止尚一層烈シク不明同知ハ

悉皆我所得ナリ午後二時我兵ヲ出シ頻ニ討撃手

間戦以來成等ト云フハ一同三十方我兵奮勵ニテ賊

ノ窠穴ニ入リ段山ヲ抜テ賊畑中ヲ四方ニ敗走ス干時

追撃手スルノ千雷ノ轟クカ如ク四時ニ至リ引揚ク

段山ヲ守ル

一同日京町會津屋ニテ濁酒拾樽ヲ聚糧ス
一同日段山北集、賊切撃手来リ午后二時撃手破ス賊盡ク
、遁逃侵棟御達、リ追撃中濁酒数樽ヲ支給ス
此日死傷多シ夕刻ヨリ段山島寄牧寄ニ放火アリ
同十四日

一正午旁二時所止賊ヨリ彈着発シテハ便高瀬、即テ昂
即死ス人夫二名傷ヲ受シ
一午後五時子頃宇土槽ニ破裂在着発シテ稲益千代、
正助足踵ニ傷ヲ受シ直ニ一役
一武庫主管工兵方、向一他ニ轉移ス
一午前勇七時本妙寺ヲ放火ス
一本日賊徒死体、埋候節各自所持金五拾九円七

拾二銭老重同濟、羊高ハ持込候人夫五名ハ
残羊高ハ先射扱、惣人ハ配子ス

一本日長官初メ宇土槽ニ轉移アリ

一段山ニテ聚糧左之通り

一票三十八俵 一小麥十二俵 一玄米十七俵 一六根切子一俵

一大豆一俵 一唐芋一俵 一籾米二十俵 一餅米老俵

ノ 一猪米二拾九俵 一玄米四拾八俵 是ハ小笠原邸ヨリ

三月十六日

一午后二時三十分牧寄ニテ米五俵 粟六俵 聚糧ス

一魚油二樽北川大封ヨリ送付ス

一玄米五俵 粟六俵 九井大封ヨリ送付ス

一玄米百四俵 牧寄ニテ聚糧之方 一票十五俵 一票五拾六

俵續御

三月十七日

一季日玄米拾一俵 粟拾一俵 麥二俵 大豆貳俵
山脇大尉ヨリ聚糧之分指定ス

三月十八日

一午前七時埵井八百屋町二百之濁酒九十樽ヲ聚糧ス
同日薪在ノ三萬貫月埵井 粟四俵段出テ

同十九日世日

他事ナシ此日聚糧 玄米四俵 埵井ニテ 粟貳俵 千立葉城下ニテ

同廿一日

一午後三時頃ヨリ外風止時過止ニ其他事ナシ

同廿二日

一午前十時ヨリ薪聚糧 烏薪堀門邊 出ル
千貫目ヲ得ル

一同日各賄込人員取調理左ノ通

十三隊隊 千四百九拾名

砲兵隊 九百拾三名

差一騎込 三百一名

芥二騎所 五百九十一名

病 四百七拾四名

メ 三千七百六十九名

同廿三日

一午前六時頃ヨリ埵井京町本妙寺辺一中
隊年進撃アリ賊ヲ見セリ由倉庫ニ放火アリ
時引揚ル

一午後一時ヨリ為聚糧 埵井地方ニ薪ヲミテ得
六時頃甚ク該所家屋ニ據テ額リニ斃銃ス故ニ

護兵、内巻名郎死一名傷ヲ被ル

午後第六時高麗門近傍荒高田原ノ二ヶ所火起ル

三月廿四日

一人夫田上甚藏脱走、首届出ル

三月廿五日他事十三

同廿六日他事十三

同廿七日

一午前三時半頃ヨリ幸町地方賊、屯所為進撃手歩
兵三中隊巡香隊衛戍兵五十名工兵五十名指揮長官
初々參謀部官員共數十名を四時ヨリ所々二分し銃
撃す或ハ進ミ或ハ横撃切敷甚之所々放火幸町
ニ進ミ我兵同如其夜守衛ヲ置午後七時引揚文
リ同日糧食分配所ヲ新堀門内ニ設ケ從是時々

戰地工運ヲ為メ糧食官更派出ス本日進軍、死
傷密十三ス

三月廿八日

一昨十七日蘆花島田惣吉第一點所ニ於テ彈丸破裂
之為即死ス

一圯并走丁目燒残り之分放火ス

一午後四時旅團長官ヨリ便福田丈子乘ル其云々
ハ秘事ニ年記載セズ

三月廿九日

一本日之賄人員左之通

千四百七十名	十三聯隊
二百九拾九名	砲兵隊
八百五十九名	五點如

五百二名

病役

一昨十五日寺卓ニテ聚糧左之通

玄米三俵

粟四俵

島米貳斗

梅干五疋

三月三十日

一昨日第一貽知ニテ取津龜ハ斃割ッ受テハ役スル

三月三十一日

一昨日貯藏調高

糯米三百十三石七斗一升

籾米九石九斗三升

粟四十三石

ノ三百六十六石六斗四升

右一日之費消高或十石ト概算亦粟米混用ニ從是先

十八日間四月十七日迄食用ニ供ス依テ四月六日ヨリ各

隊一般粟飯ヲ用ユル見込ナリ

一開城ノ上諸品買弁方本台ニ伺坐ル

品目諸品
以下三四品

四月一日

四月二日

一李台小使初ノ逃逆之者世一名岡城ノ上見認之勇捕

縛候棟御達アリ

四月三日

一午前五時坪井建町ノ西端ヨリ東江丸三丁ヨリ燒

矢ス

四月四日

一本日野廳外ニライテ聚糧左之通

清酒五樽

清箱

三十四樽

四月五日

一山服大封聚糧之旨ニテ指込ス

亥未二十三夜

一本日左之通御達アリ

各隊

朝粥

昼夕粟飯

各官解

朝夕粥

昼粟飯

之人

三食共粟飯

四月六日

一 弊應内之電ヲ以テ一兩日前ヨリ燒酎ヲ前長ニ予

晚ハ徹夜製ス

一 工兵隊作業ニ付自今朝食粟飯ヲ支給スル丁ニ

夫ニ第ニ點知ハ談マリ

四月七日

一 午前五時過ヨリ川尻地方ニ當リ大小砲聲頻

ニ聞エ

一人夫六十四名去月廿七日京町進撃ノ際悉ク力ノ者

ハ五十錢宛賜金マリ

一 若兵第ニ大隊馬肉

三頭

饒_{善名ニ}

送付ス

燒酎水筒ニ各自持

全八日

一 第十三聯隊第ニ大隊ヲ當城突入川尻ニマル官軍ニ

合セ再々當城保守之策ニ決ミ外ニ大隊ヲメ周圍之

賊ヲ拂ヒ第ニ大隊ニ通路ヲ取ラシムニ至ル其通路ハ予

業城下ヨリ通り下ラ貫通ニ去念寺南側ヲ經白川ヲ

渡リ水前寺川ヲ下リ川尻屯集ノ賊ヲ横撃スルニ

決ミタルヨリ

菅帶 濠 大迫

白井 外

佐長

第ニ大隊長真中佐引率總員五百余名ナリ

午前二時三十分將官初々參謀部ニ會計官請

隊巡查隊千粟ニ整列ス其隊ヲ幾方ニ分テ進軍
ス時將ニ囁ニトス進テ竟銃ス甚々頻ナリ賊ハ不意
ヲ襲ハレ狼狽ニテ退方ヲ知ラズ

我兵之ヲ突賊東南へ散走ス此時第一隊ハ白川ヲ
渡リ路ヲ水前寺ニ取ル幸ニ三テ一彈ヲ費マサズ快事
ト云ヘシ水前寺ニ至リ煙ヲ揚ケテ當軍ニ報ス時
諸口ニ放火ス執屋敷及ヒ九本寺ニハ土民赤々居ラズ後
依テ九本寺倉庫ニ執テ承七百二十九俵粟一俵ヲ聚
糧ス安政橋賊、炊事場ニ百ハ積米二十六俵ヲ得
タリ右運送ハ人夫及ヒ將校徒者馬丁下使等ニ至
テ奉テ之ニ役ス砲兵隊馬モ之ニ使役ス然ルニ賊東
南ヨリ押寄セ倉庫へ至ル者ヲ但殺スル丁甚々
急ナリ依テ聚糧ヲ止テ引揚タリ午後四時ナリ

一是迄食用粟外三割混淆ノ如詮議、次第百之
明九日ヨリ外二割ニ改正粥ハ米而已相改シ

四月九日

一昨八日聚糧ニ付人夫或ハ馬丁將校、徒僕等非
常ニ相働セルニ付各自志願下等七拾弍宛下賜食
事

一巡査賄一日一度粥食ニ昨日ヨリ可相改旨第一賄
所江談ニタシニ詮議、次第百徒前迄一日二度粥
食引直候事

四月十日

一過ル八日安政橋進撃ノ次第分捕、岳十五藤東
郷軍更補ヨリ持込候得共古ハ不明、品柄ニ付
留略ス但平定、上燒燬

一過、八日第二賄延、六テ銃割ヲ被リタリ昔由也

重症 下服
輕症 上腕

楠尾 清七
林 彦 平 治

一諸官員、酒肴料賜シ

一十便、雀肴病卒同着因、モ送シ

美任

卷四ニ拾 弋

判任

卷 四

諸卒

八 拾 弋

一昨日指揮長官ヨリ互、而通御達マリ

此度賊徒征討、海陸軍既ニ東西ニ皇賊徒糧

送ヲ断切セラレシ上ハ敗散遠キニ非ズ此際彼

窮鼠トテリ突然死戦ヲ決スル義モ難側自今最

モ警言戒嚴肅ヲ要スル、時ニ候幸各自今一層勵

精奉務候棟部下一同ニ篤ト可申聞此旨相達

候也

明治十一年四月十日

陸軍少將 谷 于 城

当臺守城既ニ五旬餘ヲ経ルト虫モ人氣不燒守

備倍最ニ最初戦國以來曾テ賊、侵襲良ク受

ズ我兵數回、攻撃毎戦捷ヲ奏シ殊ニ一昨八日

突田進撃、如キハ十分ノ成算并外、勝利ヲ護

ルト謂ヘシ是偏ニ各隊各部同心戮力我 天皇

階下、為難昔ヲ一取ハス各其職ヲ勉勵スルノ致ス

如屢勝利ヲ得賊勢ヲ挫折シ不日其成功ヲ

奏スヘキハ必矣ニテ深ク感賞、至候進テ其筋

へ上申可及候条此旨篤く可申聞此段相違候也

明治十年四月十日

陸軍少将 谷子城

四月十一日

一午前一時頃ヨリ九時ニ至迄植木地方銃声頻ル

一千葉城元新堀門縁外ニ藁藁糧ニ出ル凡一万貫目

四月十二日

一午前五時ヨリ北植木街道ニ當リ六十砲声頻ル

一同時南中、瀬辺ヨリ川尻、近傍ニ當リ六十砲

声甚盛ナル凡三四ヶ所、戦闘ト覺ユ九時過キ北中、瀬ニ當リ大煙見ユ

一午前八時ヨリ藁藁糧昨日ノ地方ニ出ル凡一万貫目

一午前五時川尻ニ當リ砲声アリ

一藁堀門外ニ藁藁糧トシテ凡一万五千貫目

四月十四日

一午前三時頃二本橋近傍及七高橋街道ニ當リ

其距離甚々近ニ又其南ヨリ銃聲ニ接シ

同日九時手已ニ川尻町端ニ及リ此時銃声漸々

止ト雖モ大砲尚熾ナリ官軍ハ大川川尻、堤

上ヨリ大砲二門ヲ以テ砲撃手之賊ハ同如、市街ヨリ進撃手之而シテ大煙起ル凡十三四ヶ所、十レ見ユ官兵ヨリ、放火ト想像ス

一賊花園長六ホヨリ頻リニ本城ニ放砲ス

一正午十二時川尻町ニ當リ空クアリ甚廣クナリ

蓮台寺渡口ヨリ稍西南ニ當リ同棟出セマリ

一同時賊川尻街ニ本榭、渡口ヨリ栗水前、方位

位ヲ向テ過ク者陸續トシテ絶ス銃聲、午後二時

頃ニテ本城嶺九、九ホモ異聲砲台ヨリ敗賊ヲ

砲撃手ス是ヨリ先野山津、方位ニモ銃聲頻リ又

大煙甚盛ナリ午後賊、砲台花園長六山寄ホヨリ

一モ砲放セス川尻、敗ニヨリ石所々、砲ヲ他ニ

轉セシカ

一川尻、後兵既ニ近接シタリ、今后形勢ニ依リ空圍隊

ヲ出サレテ得ス空圍隊、方向ト近ク、時機ハ敵、動靜

ニ依リ更ニ決定ス

步兵第三中隊

三縣隊、第五隊

方二第三第四中隊

巡查二十隊

三番 四番

空圍隊ノ準備、一、二百七拾発及糧食ハ一日方ヲ持

一運送以下討官等列外ニ送ル定則之如ク之ニ傷者運

搬ス、拾卒名取簿、二名ヲ付ス

空圍隊守城兵配布諸隊ノ畧ス

一川尻、官軍賊、敗走シ追撃手、午後四時本庄南端ニ

来リ銃戰、同四時半參謀長山川中佐一隊、一中隊

ヲ率テ中宇田ヨリ近ク進中戦ナシテ向町ヨリ長六

橋ヲ經山寄ヨリ来リ我兵之ヲ迎テ本城ニ入ル仍テ

一時新營ニシラシム

一同時我軍兵三隊巡査ニテ隊トテ午葉城口ヨリ出ニ川尻
元手城周圉之賊散走スルヲ追撃テスルノ甚々急ナリ
手我兵進テ川東新屋敷及ヒ坪井窪町ニ追撃テ同六時
頃賊一立田山之方位ニ走ル京町賊モ追々退ケリ
一城ノ官兵ニ第一二番所ヨリ糧食支給ラシメ
一午後六時頃第一隊團、兵一隊入城ス新營入ル寢具ノ
支給等着手ス

一昨日賊多シク山水前寺又立田山方位ニ敗走ス

一明十五日朝ヨリ陽兵粟飯ヲ相察シ更ニ米飯ヲ支給ス

告期知口通達アリ

一午後五時山川中佐率大隊ヲ率テ本庄兵別所進撃殘賊
ヲ追撃ス賊悉ク敗走其隊ヲ纏メ向町ニ哨兵配布ス

一坪井邊江進撃テ、三中隊及巡査隊トモ午後八時
子葉城線外ニ別場ヲ露營ス京町地方、銃聲止ム
一昨日空戦、諸隊ハ小食ヲ給ス

熊手守城戰畧

今般鹿見島賊徒暴季ノ跡ヲ百之二年当台防
戰、儀ニ付テハ或ハ進ニテ之ヲ薩界ノ、險ニ要シ
或ハ之ヲ予途ニ邀ル、畧ナキニ非ズ然レニ當城、
兵去冬不意ノ襲撃ヲ受ヒヨ、兵季ノ氣魄未
々全、旧時ニ復セズ諸士官專ラ士氣ヲ淬麗スルニ
注意シ招魂祭ニ依リ或ハ競馬或ハ烟花或ハ角
力等総テ士氣ヲ勵ス、是勉ム、虫モ賊徒素ヨリ強
兵ノ名、且其怒氣、発スル知容易ニ當リ難シ加之舞
下士族賊ニ消息ヲ通スルモ、不少故ニ進テ熊手市街
ヲ保護ヒトスルハ賊脚下ニ生スルノ憂々ナキニ非ズ且殊
死、完賊ヲ手京廣野ニ防テ其勝算固ヨリ進期
一旦血ノ戰敗ル、下ハ兵氣沮喪シテ之ニ賊勢ヲ長スル

ニ足ルニ温養、兵ヲ以テ初メテ守城ヲ講ルヤハ遂ニ取守
ヲ難野且之今般熊本城ヲ堅守シ以テ賊、扱ル知ヲ矢口令
ムルニマリ先ニ陸軍郷已ニ我ニ示スニ攻守共適宜ニ入
キ、命マリ蓋シ本臺、存亡西国一般、人心ニ閉スルヲ以テ十
リ我輩所見又全ク此ニマリ故ニ橋梁ヲ撤シ柴柵ヲ結ビ
通路。塞キ要知ニ地雷ヲ埋メ障礙ノ家屋ヲ毀テ以テ展
望ヲ便ニシ準備稍ヤ成ルニ臺トシ本臺忽テ矢ヲ揮實
盡ク灰燼ニ帰シ全キ知、者独リ彈藥諸器ノ三故ニ不得
止一時民家ニ調收シ以テ數旬ヲ支フルニ足ラ得タリ賊素ヨ
リ本臺ヲ輕侮ス或ハ云一朝之ヲ拔クベシト二月廿二日廿三日
力ヲ極メテ攻撃ス我兵斯ル知、自各ニ依リ別紙圖一面、通
告砲工兵ヲ配布シ十分防戦ス賊遂ニ退キ長岡、策ヲ決
スルニ似タリ於是本臺賊軍中ニ孤立シ外情ヲ偵知スルニ

由ナシ互ニ墨壁ヲ隔テ相守ル丁數日我ハ倉官知、兵ニ
月廿二日ヲ以テ着臺、心恙、知途中障礙ヲ受ルヲ以テ手
ル能ワス故ニ兵數尙少守ル可クミテ攻ルニ足ス蓋シ堅守
ノ方畧ヲ固クス賊已ニ兵ヲ分テ官兵ノ能本ニ入ル者ヲ防ク
賊兵已ニ分ルト蚤トモ縣下士族等賊ニ同スルタキヲ以テ我カ
障ヲ伺フノ恐レマリ且官兵ノ倉官ヨリ未ル者其孰レノ
地方ニ在レラ不知是ヲ以テ進入、官兵及ビ賊兵トノ間隔モ
又知ルベカラズ或ハ賊、後路ヲ突カザルヲ難測ト蚤トモ又見
知テシト云フベカラズ官兵、情況ヲ知テシテ敢シ入ラ遣ル數度ニ
及フト蚤トモ能ク其功ヲ遂ル能ワス及ニ首嶽戸正輝、置
リ其目的ヲ達スルヲ得彼我、両情悉知スルヲ得タリ於是
策ヲ決シ官兵大軍山麻本原等、賊ヲ敗ルヲ待テ我敗
賊、側面ヲ攻撃シ尾シテ川尻ハ代ヲ石メ賊ヲメ足ラ止ム

ルニ地十カヲ令ミトス既ニ官兵漸次進撃手スト虫氏賊田原其
他ノ險ニ拠リ夜進キヲ聞ク且ツ當臺糧食ノ如キ百方聚收
ノ策ヲ爲スト虫氏終ニ尽ル斯アラントス是ニ於テ策ヲ決シ糧
食未タ全ク尽カルニ及ヒ周圉ノ守線ヲ短縮シ兵若干ヲ以
テ本月八日ヲ斯ニ植本ロニ向テ圉ヲ突ニトス直前一日川尻
口嶺銃ノ音郷音盛ナルヲ聞ク弁之カ爲ニ進路ヲ開カサルハカ
ラス且ツ川尻口ノ如キハ道路平更ニメ容易ニ官兵ニ各スル
ヲ得ヘキヲ以テ遂ニ前策ヲ轉シ八日拂曉急ニ川尻口ニ
突貫シ以テ官兵ノ進路ヲ閉クニ至ル是ニ當テ城戰畧ノ
大概ナリ書シテ以テ惣覽侍致下ニ献ス

二月二十一日午前三時川尻賊、兵ヲ襲フモハ
蓋ニ賊ノ情況ヲ試ミニトノ主旨ニシテ深ク進撃手
ヲ謀ルニ非ス然ルニ我兵尅スル稍ヤ遅クスルヲ以テ

賊軍已ニ覺ルモ、不成ヲ討リ輕ク兵ヲ拳歸ル
決メ迎ハ戦フ者ニ非ナリ

能々鎮台司令長官

明治十一年

四月

陸軍ヲ將谷于城

不為止言立水兩如技箭乃驚枝伊向此冬不如飯
給留夫等波山行波草生屍海往波水渣骸顧波
而信廷尔謀反艾敵齋子悉皆尔令討罰止与言任
乃大命子以豆唱更國乃賦徒等乃皇化午不服疑
遠長久平竟_{可豆}奉_浪久_久現御神止高御座知食須天皇尊
尔称_竟辞_竟奉_浪久_久現御神止高御座知食須天皇尊
一_二日_{可豆}吉_日乃_良辰_止云_一年_乃一_月一_四日_里
波_尔年_乃号_子明_午治_留止_云一_年乃_一月_一四_日
前_尔主_北岳_神社_乃祠_官吉_一名_等乃_神靈_乃
官_百三_十名_兵卒_五百_四一_二名_等乃_神靈_乃
台_乃陸_軍中_伍共_倉知_寔以_下将_技二_一八_名下_士
我_卷毋_畏伎_此祝_詞乃_齋場_尔招_奉里_令坐_奉留_能平_鎮

又乃鏡午馳入各々母賀
且志命殖志々多有里
比愛給此身乃等級乃高
祀令行給止志此乃鎮台
設言師更里至鹿見焉大
直等乃神靈子玉鏡午取
里畫前午備奉留幣島者
荒妙御酒者白酒黑酒子
乃并高午盛足結青海互
物奧津藻菜迎津藻菜耳
子八取乃机代午置高成
島乃豐幣島止厨食豆今
里令坐奉留汝命等乃幸
魂奇魂天翔國翔里

天皇尊乃大御代表
幸倍侍利鎮台乃官直等
美侍禮白須夏子厨食世
畏々々嘆白須汝命等子
辞別豆白須汝命等子令
尔參集駒仕奉留雅樂乃
畏々々嘆白須
又白入任競馬相撲火術
泖落武事乃在
給培忌々々嘆白須

祝文

薩賊ノ縣下ニ闖入スルマ其氣已ニ天下ヲ吞ミ山嶽勃興我力
城壘ヲ視ル蟻垤ニ均シク謂フ一踢シテ過ルヘシト而人少將
初ヨリ策ヲ守城ニ決シ居然不動士卒ヲ訓練スル有素士卒
之カ為ニ死スルヲ樂ミ一戰以テ其氣ヲ折キ再戰シテ其膽ヲ
破ル之レニ繼テ段山ノ塵戰安已橋ノ突衝一モ其機ニ中ラケ
ルハナシ既ニノ南軍連絡シ賊徒先ヲ争テ逃去ス總督軍ヲ
分テ進ミ豊日ノ戰ニ亦大ニ熊本鎮臺ノ名ヲ震フ遂ニ巢
窟ヲ薩ニ覆レ巨魁悉ク尤ヲ授ク嗚呼少將當初城守決
戰其勢ヲ挫折スルニ非スニバ總督戡定ノ功焉ノ軀少
如此之レ速カナルヲ得ニヤ昔楠公劍窟ヲ守テ逆賊ノ膽
ヲ破リ張巡睢陽ヲ守テ鄴ノ功ヲ成ス少將ノ勲之ヲ二子ニ
ス未タ日ヲ同クメ語ルヘカラス聊カ拙辭ヲ陳シテ以テ凱旋

ヲ祝ス

明治十年十月六日

富岡敬明

祭文

維明治十年十月我熊本鎮臺一盛拳アリ是亦
 年征討ノ役ニ没スル所ノ忠魂義膽ヲ慰撫スル
 祭典ナリ抑春二月薩賊狼リニ回憲ヲ犯シ兵器
 ヲ弄シ大擧シテ猖獗ヲ極メ我熊本縣下ニ闖入
 シ大城ヲ圍ンテ其攻撃ヲ鋭クス此時ニ當ツテ
 官兵ノ城中ニ在ルモノ甚多カラス外援至ラス
 自ラ孤守ノ形ナキヲ免レス然ルニ谷陸軍少將
 守戦ノ妙術ヲ顯ハシ部下ノ將校士卒皆熊虎ノ
 資連屈セス四十有余日ヲ経テ城兵圍ヲ突キ外
 援後ヲ攻メ賊ヲメ遠ク退キ再ニ顧ルニ服アラ
 サラシメ尋テ尾撃シテ豊日ノ境上ニ蒞メリ賊
 亦全ヲ茲ニ用ヒテ衝突實ニ勤タリ臺兵ノ之ニ

當ルモノ勢倍加リ故ヲ以テ賊遂ニカ弾キ固ヲ
潰メ其故穴ニ遁レ元兇首ヲ授ケタリシハ實ニ
九月廿四日ニシテ前後八閱月初メテ平定鎮靜
ニ歸スルヲ得タリ此役ヤ官兵ノ之ニ從事セル
モノ數旅團數十大隊其功績何レヲ甲何シヲ乙
トスヘカラスト虽氏其初ヨリ戦功ト苦辛トヲ
見レハ獨リ我熊存鎮台兵ヲ以テ遠ク各旅團ノ
上ニ置クモ敢テ証擇ニアラサルヲ信ス嗚呼盛
ナル哉然リ而メ我將校士卒ノ
王難ニ膺リ死ヲ輕ニスル猶モノ如ク不幸ニメ
賊ノ彈丸刃刃ニ觸レ永ク黄泉ニ歸シタルモノ
、如キ何ソ夫レ幸ヒテ貴烈此ノ如キノ人ニ降
ス丁ヲ欲セサルヤ天道ハ誠ニ是乎非乎誰カ

皇國ノ為メニ痛悼哀惜セサルヲ得シヤ夫然リ
豈夫然ニヤ生者必滅ハ人生ノ常道ナリ況ヤ
王師ノ士卒トナリ人民ニ代リ身ヲ以テ國ニ殉
ヘ進ムト有テ退クトナク梟賊ヲ剪鋤メ嚴ク泉
下ニ葬リ姓氏ヲ竹策ニ止メテ而メ名ヲ九天ニ
輝シ
皇國ノ人民タルノ名分ヲ全フセル亦何ヲ以テ
カ是ニ加ルモノアラシヤ之ヲ思フテ一タヒハ
悲哀シ一タヒハ欽羨シ社前ニ渴仰九拝シテ天
上忠烈ノ精靈此善ナル祭奠ヲ設ケ茲ノ美ナル
壯觀ヲ翫ヒ必ス其快樂ヲ專ラニスルアラシ
ヲ信スト敬白

明治十年十月十六日

活版舎飛頁代理

伊喜見文吾

國家之深恥ニシテ黎庶良民ノ至痛ナリ今年之
春亂民西南之一隅ニ蜂起シテ于戈ヲ倒ニシ
テ聖德ヲ瀆サントス幸ニ公等義士死ヲ以テ之
ニ當リ進テ義ニ斃レ斃テ生ヲ欲セス勇闘奮戰
實ニ是レ吾レ我ヲ忘テ終ニ禍乱ヲ戡定シ今日
ノ昇平ヲ致ス又以テ
陛下之憂ヲ解ニ於テ幾許カ其功無キヲ得ンヤ
呼其死ハ以テ悲ム可シト至人トシテ功ナク
徒ラニ世ヲ空スルヨリ恥多キハ非ル也公等之
死人誰カ之ヲ悲ミ永壽ヲ望マサルモノナカラ
ニヤ然至名ヲ正フシテ義ニ斃レ節ヲ明ニシテ
國家ヲ遠永ノ治道ニ尊キ芳名ヲ竹帛ニ垂ル
トヲ得バ亦焉ゾ憾ミル所アラニヤ人死シテ名

ナキハ恥辱ノ甚キモノトス今ヤ公等尽忠ノ素
志ヲ慰セント欲シテ特ニ招魂祭施行ヲ賜フ實
ニ明治十年十月也之等徒ニ民間文墨ノ間ニ繫
ルヲ以テ公等忠奮義烈之精神情中ニ感スルモ
ノ膏ニ小少ナラス為メニ文ヲ以テ節死ノ忠魂
ニ奠ム尚クハ之ヲ饗セヨ

明治十年十月十六日

熊本新聞編輯長

中嶋周賢

同社員

古市信太郎

祭文

維明治十年十月我熊本鎮臺一盛奉アリ是并
年征討ノ役ニ没スル所ノ忠魂義膽ヲ慰撫スル

謹テ能本鎮台凱旋式ヲ祝シ奉ル抑紀元二十五年
白三十七年即明治十一年二月ニ顧面スルニ效氣
薩地ニ萌芽シ盡賊潮ノ如クニ起リ朝憲ヲ犯
シテ不軌ヲ企圖シ數萬ノ大兵ヲ誘率シ猶肥賊
ノ之ニ應スル者ヲ促テ本臺ヲ圍ミ殆ト危殆ノ
ノ勢ヲ為ス然ト雖將氣却テ銳ニ號令嚴肅兵士
之ヲ以テ辱セス或ハ防戰或ハ突戰屢賊氣ヲ挫
シ籠城爰ニ五十一全日此ニ援軍台ノ南北ニ涉リ
日夜奮闘スルアリト雖未タ容易ニ之ヲ拂交ス
ルコト能ハスシテ却テ城中ノ糧乏空ニ瀆ス城將
之ヲ以テ別ニ軍議ヲ為シ銳兵一大隊ヲ城外ニ
突出セシメ以テ河尻口ノ官軍ニ駭セ接軍ヲ鼓舞

祝文

シ畢ニ四國ノ賊ヲ蹂躪シテ初メテ將路ヲ通
ス長驅シテ竹宮ノ激戰ヲ爲賊ノ屍ヲ賦テ盡氣
ヲ挫折ス茲ニ於テカ東南ノ僻陬ニ驅逐シ鹿見
島ニ追ヒ日向ニ擊ツ蓋シ本台ノ攻撃面ハ豊後
ノ嶮也初メ四面ノ圍ヲ受ケ再ヒ此ノ嶮ニ當ル
凡ソ三旬賊ノ猖獗ナル尚ホ未タ停マサリト至
禾夕曾テ敗ヲ取ラス終ニ各旅團トカヲ協セテ
延岡ノ根柢ヲ拔ク渠レ一タヒ江ノ嶽ニ逸シ覺
城ノ百墨ニ歸リシモ九月廿四日大舉シテ覆巢
スルニ該テ殲盡スヨリ將校革士ノ黽勉奮闘
帝室ヲ奉護シ國家ヲ顧フノ深キ能ク之ヲ致ス
モノアラハルヲ得ニヤ然リ而シテ此慶ノ度タル
實ニ國家安危ノ機ニシテ黎庶ノ幸福ヲ得夫ス

ル特リ此機ニ在リ今茲ニ賊氛ヲ拂フテ凱旋ノ
今日アリ正ニ兵器ヲ武庫ニ納メテレントス蒼生
幸ソ雀躍欣譁凱旋ノ速カニ泰亂ノ夷キヲ賀セ
ヤルヲ得可ニ茲ニ於テ臣等恭ク閣下及諸將校
兵士ノ勞功ヲ慰セシテ敬シ其戰歿シ聊カ微衷
ヲ表ス冀クハ能ク鎮台司令長官陸軍少將谷下
城公閣下其レ能ク受セラレニ事ヲ

明治二十一年十月五日

東立朝野新聞社社員
小魚元房
無平新聞編輯長
中島周賢

將校劍術出場表

祝詞
此乃齋場午招奉里令坐奉留並奉鎮
乃陸軍中佐與倉知實以下將校三十八名
台 裁 乃 陸 軍 中 佐 與 倉 知 實 以 下 將 校 三 十 八 名 奉 留 並 奉 鎮

相識兼君四十春
征衣共是蹴邊塵
當年意氣今猶昔
豈料幽明異境人

大正十五年丙寅初夏
悼田原君鑑一翁

厚知同縣
石倉三男

清露西南奏大勲威風
猶是歷三軍方知勝伯
風流筆名遂功成在此
文

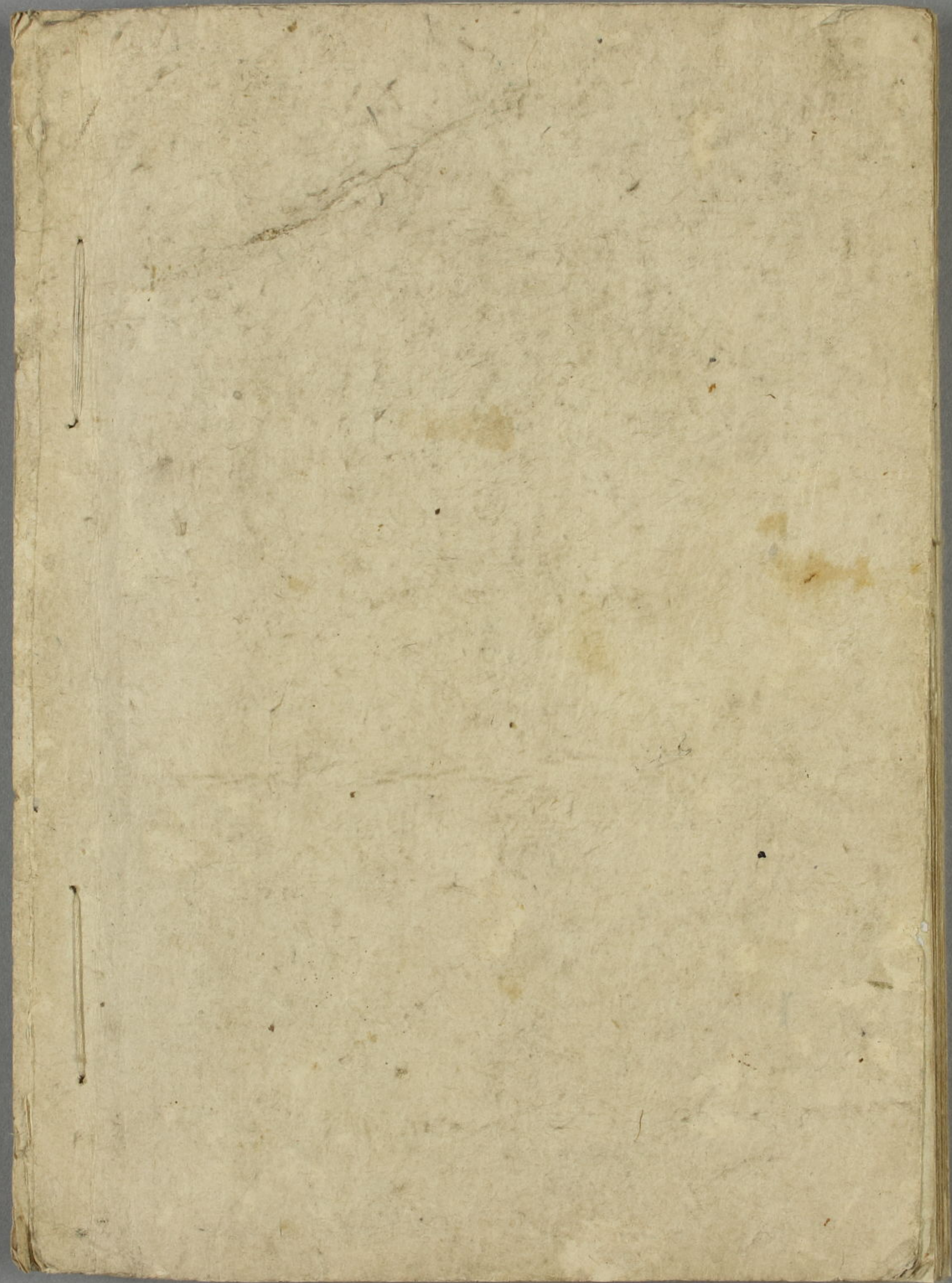
大正十三年甲子青寄田原鑑二翁

屏知

山陽

如散文





明治十二年一月

勤賞履歴扣

田原鑑一

特別
リ5
15709
付



和

履歷

出征令記 熊本鎮臺參謀部 出仕

東 記 熊本鎮臺砲兵第六隊第一隊中隊隊長

砲兵科 陸軍少尉 田原 鑑一

明治十年二月十八日熊本鎮臺砲兵第六隊第一小隊中
 央分隊率等城戰闘四月十九日鹿島縣賊徒征討被仰出
 月廿二日開戰賊兵大拳城固襲來我分隊宮内片山即於
 防戰其際左膊及頸上銃創擦過受續出勤此後日夜砲戰
 四月十四日解城至四月十七日參謀部出仕被申竹月十八日
 被任陸軍少尉四月十九日ヨリ大進擊熊本縣下砲取掛出張可
 七日竹宮進擊從軍四月廿二日福原出張四月廿五日馬木出張
 四月廿八日濱町出張五月十四日馬見原地方鏡山賊襲來防
 戰從軍四月廿三日高森出張六月八日阪梨出張四月廿五日大

分縣下竹田出張四廿一日三重市出張四廿三日重岡出張
四廿四日延岡街道赤松峠賊襲來防戦從軍七月一日延岡
街道觀音山攻奪從軍四廿三日持峠城越賊襲來防戦從
軍四廿四日延岡街道陸地峠攻撃從軍四廿九日
坂戸山進撃從軍四廿一日黒土峠進撃從軍四廿三日赤松
峠古道賊襲來防戦從軍四廿七日坂戸山城越進撃從軍
八月六日延岡街道大口進撃從軍四廿一日押瀬口夫立
峠進撃從軍四廿五日魔邊縣下熊田地方進撃從軍四十八
日日谷進撃從軍四廿二日熊田出張三重市出張四廿三日該所
行
田出張四廿六日該所行四廿八日熊本、飯城九月六日谷中將臨
行魔邊出張四十二日魔邊田上村着四廿四日城山進撃從軍四
廿九日魔邊出張全ノ平定一十月六日熊本、歸臺

十一年十二月廿四日其の賊襲來防戦又

肥前守の日記

明治十年三月十八日熊本鎮守室屋兵勇六隊第一小隊中
央分隊率七名鹿嶋城戰四日廿三日鹿嶋城防戦
廿四日法花城防戦廿五日鹿嶋城防戦三月廿七日京町進撃四廿八日
岩政橋進撃四廿九日岩政橋進撃四月一日岩政橋進撃四月二日
北口進撃四月三日北口進撃四月四日北口進撃四月五日北口進撃
鏡山賊襲來防戦四月六日鏡山賊襲來防戦四月七日鏡山賊襲來防戦
揚子再々進撃四月八日揚子再々進撃四月九日揚子再々進撃

家譜包三書三大家

大分下巡廻街道赤松峠賊襲來防戦之次第之役
引揚撃之。翌日進軍、早中一隊後へ

七日進軍街道觀音山進軍中。日三時峠へ入隊發

來防戦。日三時峠へ入隊發。日三時進軍街道陸地

味進軍中。日三時峠へ入隊發。日三時進軍街道陸地

味進軍中。日三時峠へ入隊發。日三時進軍街道陸地

味進軍中。日三時峠へ入隊發。日三時進軍街道陸地

味進軍中。日三時峠へ入隊發。日三時進軍街道陸地

味進軍中。日三時峠へ入隊發。日三時進軍街道陸地

味進軍中

履歴

熊本鎮台砲兵才六大隊才一小隊附

砲兵科 陸軍少尉田原鑑一

靜岡縣士 旗

明治十年二月十八日熊本鎮台砲兵才六大隊才一小隊中央分隊ヲ率テ龜城

戰闘同日十九日鹿見島縣賊徒征討被仰出日廿二日開戦賊兵大等城

ヲ圍テ襲撃ス我分隊宮内片山郎ニ於テ防戦其際左胸及頭上銃創擦過シ

受ク續テ出動三月廿七日東京所進軍中四月八日安政橋進軍其餘日夜砲

戰續テ四月十四日解城ニ至リ日十七日熊本鎮台參謀部出仕被申付日廿日

被任陸軍少尉日十九日ヨリ大進撃熊本縣下砂取村へ出張日廿日竹宮進撃

戰闘日廿日福田出張日廿五日馬水出張日廿八日濱町出張五月十四日馬見

原地方鏡山賊襲來防戦日廿三日高木林出張六月一日沼利出張日十五日之

分縣下竹田出張日廿三日三重市出張日廿三日重岡出張日廿四日延岡街

履曆

官姓名

豫備砲兵第三大隊

明治十二年十一月二十日

静岡縣士族

田原野一

嘉永六年一月七日東京小石川高野町生

一明治七年十月二日陸軍兵学校入学

一明治八年九月九日陸軍兵学校卒業陸軍士官学校接管轉校仰出

一明治九年二月陸軍士官学校及砲兵科卒業

一明治十年二月九日陸軍少尉就任

一明治十年十二月二十日為本隊砲兵才六大隊才二隊中央分隊長

秋中侍候事

一明治十年二月十九日麻見島賊徒征討被仰出同月十八日

康廣池

鎮守使於支那城四月五日廣津至

明治十年四月十七日能兵六隊附差免其年餘之冬謀部
出仕~~後~~申付候事

明治十年四月十六日~~任~~海軍少尉

明治十年四月十六日~~任~~大退勤~~手~~在~~島~~分縣下所~~之~~戰國十月
二日平定歸也

明治十年二月三日~~任~~本鎮守使參謀部出仕~~後~~免日~~臺~~豫備砲兵
少三隊才~~示~~隊右分隊長~~社~~ 仰付候事

明治十年九月廿日~~任~~本鎮守使參謀部砲兵才三隊才~~示~~隊右分隊
長~~社~~免日~~臺~~隊左分隊長~~社~~ 仰付候事

明治十年十月廿九日~~任~~本鎮守使參謀部砲兵才三隊才~~示~~隊左
隊長~~社~~ 仰付候事

明治十年正月二日~~任~~本鎮守使參謀部砲兵才三隊才~~示~~隊左分隊
長~~社~~免日~~臺~~隊才~~示~~隊左分隊長~~社~~ 仰付候事

明治十二年四月十五日~~任~~在~~島~~送~~役~~征~~付~~之際~~意~~力其功~~才~~
~~免~~日~~臺~~等~~才~~ 仰付候事

被對熟六考金百九十四下物

右御札中上之物

考考

官熟性名

寫內者武部察御中

族考錄古聖官舍才志之長兩家

六、居住江漢之人士亦多與之也

五下北

二政官

官位

實錄

